



No.	注記No. 出土位置 (5mGr/1mGr)	器種	部位	分類	層位	口径	底径	外面色調	内面色調	外面文様及び調整	内面文様及び調整	胎土	備考
26	D5b 3149	深鉢	口縁部 ~胸部	I A	IV			5YR6/8橙	5YR4/8赤橙	貝殻条痕文(縦)後ナデ、 指頭圧痕	貝殻条痕文(横)後ナ デ、指頭圧痕	2mm以下の灰白粒微少、10 mm以下の乳白粒多	
27	E3b/E3b 3248/3249	深鉢	口縁部	I A	IV (24.2)			10YR6/4にぶい黄 橙	10YR4/3にぶい黄橙 10YR2/1黒	貝殻条痕文(縦)後ナデ、 黒斑、指頭圧痕	貝殻条痕文(横)後ナデ	6mm以下の灰白粒多	黒斑
28	G3a 3463	深鉢	口縁部	I A	IV			5YR5/6赤褐	5YR6/6橙	貝殻条痕文(縦)後ナデ、 指頭圧痕、口唇部粘土弛 み	ナデ、指頭圧痕	7mm以下のにぶい赤褐粒 多、4mm以下の赤灰粒微少	粘土ひも 接合痕
29	D4a/E4d 4130/4549 v	深鉢	口縁部	I A	IV (18.0) /V			7.5YR5/2灰褐、	10YR4/3にぶい黄褐 10YR7/4にぶい黄褐	貝殻条痕文(縦)後ナデ、 横ナデ	貝殻条痕文(縦方向)後 ナデ	5mm以下のにぶい褐粒微 少	
30	G2d 2565	深鉢	口縁部	I A	IV			5YR4/8赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	貝殻条痕文(縦上に斜)	風化著しく調整不明、指 頭圧痕	2mm以下の黒光沢粒・2mm 以下の灰白粒多、褐灰粒 微少	
31	D3d/D4a 3736/4034	深鉢	胸部	I A	IV			5YR6/8橙	5YR2/1黒褐	貝殻条痕文(縦)後ナデ	貝殻条痕文(横)後指ナ デ(縦)、横ナデ、黒斑	5mm以下の褐灰粒多、灰白 微粒少	
32	F3a 3353	深鉢	口縁部	I A	IV (23.7)			10YR6/4にぶい黄 橙	10YR6/6明黄褐 10YR5/1褐	貝殻条痕文(横)	丁寧なナデ	1.5mm以下の灰白粒多、透 明微粒少	黒斑
33	F3b 3457	深鉢	口縁部	I A	IV			10YR5/2灰黄褐 10YR6/4にぶい黄 褐	7.5YR6/4にぶい橙	貝殻条痕文(横)後横ナ デ、瘤状突起	横ナデ、指頭圧痕	5mm以下の灰白粒・2mm以 下の黒光沢粒多	
34	F3c 3751	深鉢	口縁部	I A	IV			2.5YR5/6明赤褐	2.5YR6/6橙	貝殻条痕文(横)後ナデ、 指頭圧痕	貝殻条痕文(斜)後ナ デ、指頭圧痕	7mm以下の灰褐・暗赤褐微 少、3mm以下の乳白粒多	粘土ひも 接合痕
35	G3c 3465	深鉢	口縁部	I A	IV (24.0)			2.5Y7/4浅黄 2.5Y4/2暗灰黄	10YR5/4にぶい黄橙 2.5Y7/4浅黄	貝殻条痕文(横)	風化著しく調整不明	2mm以下の灰白粒多	
36	F2a 2150	深鉢	口縁部	I A	IV			10YR7/4にぶい黄 橙	10YR6/4にぶい黄橙	貝殻条痕文(横)後ナデ	貝殻条痕文(横)後ナデ	6mm以下のにぶい黄橙・褐 灰粒多	粘土ひも 接合痕
37	F5a 5151	深鉢	口縁部	I A	IV			7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/2灰褐	貝殻条痕文(横)、穿孔、 風化著しい、	風化著しく調整不明、穿 孔	8mm以下の明褐灰粒微少、 5mm以下の乳白粒微少、3 mm以下の黒光沢粒微少	
38	F3b 3156Ⅲ	深鉢	胸部	I A	Ⅲ			7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR5/2灰褐	貝殻条痕文(横)後ナデ	ナデ、風化ぎみ	2mm以下の黒褐粒少	
39	F2d 2955	深鉢	胸部	I A	IV			2.5Y7/4浅黄	2.5Y3/1	貝殻条痕文(横)後横ナ デ	貝殻条痕文(縦)後ナデ	1mm以下の灰白粒多、白光 沢粒、5mm以下の灰粒少	黒斑
40	G2d 2267	深鉢	口縁部 ~胸部	I A	IV (26.2)			10YR6/2灰黄褐 10YR3/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐	貝殻条痕文(斜)後ナ デ?、指頭圧痕	ナデ?	2mm以下の灰白粒多、3mm 以下の黒光沢粒微少	黒斑
41	D3c 3632	深鉢	口縁部	I A	IV			2.5YR5/3黄褐	10YR6/4にぶい黄褐	貝殻条痕文(斜)後ナ デ、指頭圧痕	貝殻条痕文(斜)後ナ デ、指頭圧痕	3mm以下の灰白・黒光沢粒 多、1mm以下の茶粒を微少	
42	E3d 3747	深鉢	口縁部	I A	IV			7.5YR7/6橙 7.5YR4/1褐灰	7.5YR7/6橙 7.5YR5/2灰褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ	貝殻条痕文(斜)後ナデ	1mm以下の灰白粒多、2mm 以下の灰褐粒、1mm以下の 黒・透明粒	黒斑
43	G3a 3361	深鉢	口縁部	I A	IV			5YR4/6赤褐	5YR3/6暗赤褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ、 口唇部一沈線	貝殻条痕文(横)後横ナ デ、指頭圧痕	2mm以下の灰白・黒光沢粒 多、2mm以下の灰粒少	
44	E3d 3649	深鉢	口縁部	I A	IV			10YR6/4にぶい黄 橙	10YR6/4にぶい黄橙	貝殻条痕文(斜)後ナデ、 横ナデ	貝殻条痕文(斜)後ナ デ、指頭圧痕	1mm以下の灰白粒多、3mm 以下の褐灰粒少	粘土ひも 接合痕
45	F2d 2959	深鉢	口縁部	I A	IV			2.5Y3/2黒褐 2.5Y8/4浅黄	2.5Y8/4浅黄 2.5Y4/3オリーブ褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ	丁寧なナデ	灰・透明微粒多	
46	E3c 3740	深鉢	口縁部	I A	IV			7.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	貝殻条痕文(斜)後ナデ	貝殻条痕文(斜)後、指 ナデ	1mm以下の黒光沢粒多、6 mm以下の暗赤褐・7mm以下 の灰白粒	粘土ひも 接合痕
47	E3d 3949	深鉢	口縁部	I A	IV			10YR4/3にぶい黄 褐	10YR3/2黒褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ	風化著しく調整不明	4mm以下の灰白・褐粒多、2 mm以下の透明粒・黒光沢 粒微少	
48	G2d 2667	深鉢	口縁部	I A	IV			7.5YR5/6明褐	2.5YR3/6暗赤褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ	貝殻条痕文(斜)	6mm以下の灰黄・1mm以下 の黒光沢粒多、4mm以下の 赤褐粒少	
49	C4a/C4b 4020/4027	深鉢	口縁部	I A	IV			7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ、 指押さえ	貝殻条痕文(斜)後ナデ	3mm以下の灰白・2mm以下 の黒光沢粒多、5mm以下の 灰褐粒少	
50	F3c 3552	深鉢	口縁部	I A	IV (22.4)			2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄	貝殻条痕文(斜)後ナデ、 風化ぎみ	ナデ	2mm以下の灰白粒微少	
51	G3a 3061	深鉢	口縁部	I A	IV			2.5YR7/4浅黄	2.5YR7/6明黄褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ、 指頭圧痕	丁寧なナデ	1mm以下の灰白粒多	
52	F3b3256	深鉢	口縁部	I A	IV			10YR3/1黒褐 10YR7/6明黄褐	2.5YR8/3淡黄 5YR7/6橙	貝殻条痕文(斜)	丁寧なナデ	1mm以下の灰白粒多、透明 粒少	
53	G2d 2769	深鉢	口縁部	I A	IV			10YR7/4にぶい黄 橙	10YR7/6明黄褐	貝殻条痕文(斜)?、風化 ぎみ	ナデ	2mm以下の透明粒、3mm以 下の灰白粒多	
54	F3b 3059	深鉢	口縁部	I A	IV			7.5YR4/4褐	7.5YR4/3褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ	ナデ、風化ぎみ	2mm以下の黒光沢粒多、1 mm以下の灰白粒微少	
55	E3b 3149	深鉢	口縁部	I A	IV (23.5)			2.5YR4/8赤褐 5YR4/1褐灰	2.5YR4/8赤褐	貝殻条痕文(斜)?後ナ デ	ナデ	7mm以下の褐灰・5mm以下 の灰白粒多	
56	F3b 3456	深鉢	胸部	I A	IV			10YR8/6黄橙	10YR3/1黒褐	貝殻条痕文(斜・横)後 ナデ	ミガキ?、黒斑	2mm以下の橙粒少、3mm以 下のにぶい赤褐粒	
57	D5a 5231	深鉢	胸部	I A	IV			7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	貝殻条痕文(斜)後ナデ	丁寧なナデ	2mm以下の茶褐粒少	
58	F3b/F3b 3257/3357	深鉢	胸部	I A	IV			5YR5/4にぶい赤褐 5YR3/1黒褐	5YR5/4にぶい赤褐	貝殻条痕文(斜)後ナデ、 穿孔	上半風化ぎみ、丁寧な ナデ	1mm以下の乳白粒・透明粒 多	粘土ひも 接合痕
59	F3b 3457	深鉢	胸部	I A	IV			10YR5/4にぶい黄 褐	10YR6/4にぶい黄褐	貝殻条痕文(斜・横)後ナ デ、指頭圧痕	貝殻条痕文(横)後ナデ	3mm以下の白光沢粒微少、 1mm以下の黒光沢粒多	ガンジリ痕
60	F4a 4052	深鉢	胸部	I A	IV			10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	貝殻条痕文(斜)後ナデ	貝殻条痕文(斜)後ナデ	4mm以下の赤粒、2mm以下 の透明粒微少	ガンジリ痕

第13表 森ノ上遺跡縄文時代早期土器観察表(1)

No.	注記No. 出土位置 (5mGr/1mGr)	器種	部位	分類	層位	口径	底径	外面色調	内面色調	外面文様及び調整	内面文様及び調整	胎土	備考
61	G2d 2665	深鉢	口縁部 ～胴部	I B	IV			10YR5/4にぶい黄 褐10YR3/4暗褐	5YR7/8橙 10YR7/4にぶい黄橙	口縁端→貝殻腹縁刺突 文(縦)、貝殻条痕文(横) 後ナデ	丁寧なナデ	1mm以下の灰白粒多、透明 微粒少	黒斑
62	E2d S184	深鉢	口縁部	I B	IV			7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/4にぶい褐	口縁端→貝殻腹縁刺突 文(縦)、貝殻条痕文(横 方向)後ナデ、風化ざみ 口縁端→貝殻腹縁刺突 文(斜)、貝殻条痕文(横)	ナデ	2mm以下の灰白粒多	
63	F3d 3657	深鉢	口縁部	I B	IV			7.5YR4/1褐灰	7.5YR4/1褐灰	口縁端→貝殻腹縁刺突 文(斜)、貝殻条痕文(横)	丁寧なナデ	1mm以下の灰褐粒多、透明 粒少	
64	E3c 3944	深鉢	口縁部	I B	IV			2.5Y4/2暗灰黄	7.5YR6/6橙	口縁端→貝殻腹縁刺突 文(斜)、貝殻条痕文(斜)	貝殻条痕後丁寧なナデ	4mm以下の褐粒・3mm以下 の乳白粒多、3mm以下の黒 光沢粒少	
65	F3d/G3c 3555/3860	深鉢	口縁部	I B	IV (28.0)			2.5Y8/3淡黄	2.5Y6/1黄灰	口縁端→貝殻腹縁刺突 文(斜)、貝殻条痕文(横)	貝殻条痕文(横)後丁寧 なナデ	5mm以下の乳白粒多、7mm 以下の黒粒少	
66	F3b 3459	深鉢	口縁部	I B	IV (26.2)			7.5YR2/2黒褐	7.5YR6/6橙	口縁端→工具による刺突 文?貝殻条痕文(斜)後 ナデ	貝殻条痕文(斜)後丁寧 なナデ、指頭圧痕	2mm以下の灰褐・赤褐粒 多、1mm以下の黒粒少	
67	G3a 3163	深鉢	口縁部	I B	IV			7.5YR4/3褐	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR3/1黒褐	口縁端→押し引き文 (斜)、貝殻条痕文(横)後 ナデ	丁寧なナデ	2mm以下の乳白粒多	黒斑
68	F2d 2956	深鉢	口縁部	I B	IV			10YR8/3浅黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	口縁端→押し引き文 (斜)、貝殻条痕文(横)	丁寧なナデ	3mm以下の乳白粒多	
69	F2d 2955	深鉢	胴部	I B	IV			10YR6/4にぶい黄 橙	7.5YR6/6橙	口縁部→押し引き文 (横)、貝殻条痕文(横)	丁寧なナデ	3mm以下の橙粒・明橙粒・1 mm以下の乳白粒微少	
70	E4a/E4c 4142/4842	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR3/1黒褐	10YR7/3にぶい黄橙	口縁→貝殻腹縁刺突文 (3段?)、口縁下部→無 文	風化ざみ、ナデ?	5mm以下の黒褐粒・5mm以 下の灰白粒多	
71	C3d/E4a 3629/4443	深鉢	口縁部	I C	IV (32.6)			10YR6/3にぶい黄 橙	10YR7/6明黄褐 10YR6/2灰黄褐	口縁→貝殻腹縁刺突文(2 段以上?)	丁寧なナデ	4mm以下の乳白粒・3mm以 下の黒粒・3mm以下の黒光 沢粒微少、3mm以下の灰白 3mm以下の黒光沢粒微少、 5mm以下の灰白粒・褐灰粒 多	
72	G3a 3262	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR3/1黒褐 10YR6/4にぶい黄 橙	10YR7/6明黄褐	口縁→貝殻腹縁刺突文 (3段)、口縁下部→無文、 ナデ、黒斑	風化ざみ、丁寧なナデ	6mm以下の灰白粒、5mm以 下の褐灰粒、2mm以下の黒 光沢粒	黒斑
73	E4a 4443	深鉢	口縁部	I C	IV (27.0)			10YR3/1黒褐 10YR6/4にぶい黄 褐	10YR6/6明黄褐	口縁→貝殻腹縁刺突文 (2段)、口縁下部→無文、 丁寧なナデ、指頭圧痕	丁寧なナデ	6mm以下の灰白粒、5mm以 下の褐灰粒、2mm以下の黒 光沢粒	黒斑
74	D5a 5433	深鉢	口縁部	I C	IV (34.1)			10YR3/2黒褐	10YR5/4にぶい黄褐	口縁→貝殻腹縁刺突文 (3段?)、口縁下部→無 文、風化ざみ	風化が著しく調整不明	5mm以下の乳白粒多、5mm 以下の黒粒微少、3mm以下 の黒光沢粒多	外面拓本 のみの 黒光沢粒多
75	F3c3654	深鉢	口縁部	I C	IV (25.4)			7.5YR3/1黒褐 にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	口縁→貝殻腹縁刺突文(2 段以上?)	丁寧なナデ	9mm以下の乳白粒・4mm以 下の黒褐粒・2mm以下の黒 光沢粒多	粘土ひも 接合痕
76	F3c 3552	深鉢	口縁部	I C	IV			7.5YR6/1灰褐、 7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/3にぶい褐	口縁→貝殻腹縁刺突文 (2段?)、口縁下部→無 文?	丁寧なナデ	3mm以下の灰褐粒・3mm以 下の黒光沢粒多	
77	F3b 3458	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR6/4にぶい黄 橙	10YR7/4にぶい黄橙	口縁→貝殻腹縁刺突文(3 段以上?)、口縁端→押し 引き文(横)	丁寧なナデ	3mm以下の乳白粒微少、2 mm以下の黒光沢粒多	
78	E4a 4043	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR3/1黒褐	10YR6/3にぶい黄橙	口縁→貝殻腹縁刺突文 (2段?)、工具痕	貝殻条痕文後丁寧なナ デ	4mm以下の乳白粒・3mm以 下の黒光沢粒少	粘土ひも 接合痕
79	E3b 3046	深鉢	口縁部	I C	IV			7.5YR5/6明褐	7.5YR5/3にぶい褐	口縁→貝殻腹縁刺突文	風化ざみ、丁寧な?ナ デ	3mm以下の灰白・1mm以下 の黒光沢粒多、5mm以下の 灰褐少	
80	F3b 3157	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR4/1褐灰	10YR7/4にぶい黄橙	口縁→貝殻腹縁刺突文 (3段)、口縁下部→無文	丁寧なナデ	6mm以下の灰黄褐粒・、5mm 以下の灰粒微少、5mm以 下の灰白粒多、2mm以下の 黒光沢粒少	黒斑?
81	F3b 3256Ⅲ	深鉢	口縁部	I C	Ⅲ			10YR5/1褐灰	7.5YR7/6橙	口縁→貝殻腹縁刺突文 (3段)、口縁下部→無文	ナデ	6mm以下の乳白粒・にぶい 黄橙粒多、2mm以下の黒光 沢粒微少	
82	C4b 4029	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR6/3にぶい黄 橙	10YR7/8黄橙	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ	風化著しく調整不明	4mm以下の黒・茶褐・灰白 の粒少、2mm以下の黒光 沢粒少	
83	G2d 2765	深鉢	口縁部	I C	IV (25.2)			2.5Y5/4黄褐	2.5Y7/4浅黄	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ、口縁中→貝殻腹 縁刺突文(縦)、口縁下部 →無文、丁寧なナデ	丁寧なナデ	6mm以下の乳白粒多、5mm 以下の乳白粒微少、2mm以 下の黒光沢粒多	穿孔
84	E4d 4747	深鉢	口縁部	I C	IV			7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/6橙	7.5YR5/3明褐 7.5YR7/2明灰褐	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ、口縁下部→無 文、微隆起	風化ざみ、丁寧な?ナ デ	4mm以下の灰白粒多、1mm 以下の透明粒・黒光沢粒 少	粘土ひも 接合痕
85	E4a 4243	深鉢	口縁部	I C	IV (23.6)			10YR6/4にぶい黄 橙10YR2/1黒	7.5YR5/6明褐 7.5YR3/1黒褐	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ、口縁下部→無 文、黒斑、微隆起	風化ざみ、丁寧な?ナ デ	4mm以下の灰白粒、3mm以 下の黒光沢粒多	
86	F3a 3353	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR5/4にぶい黄 褐10YR8/8黄橙	10YR7/6明黄褐 10YR6/2灰黄褐	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ、口縁下部→無 文、丁寧なナデ	丁寧なナデ	4mm以下の灰白粒微少、2 mm以下の黒光沢粒	
87	G3c 3562/3564	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR7/4にぶい黄 橙	10YR7/3にぶい黄橙	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ、口縁下部→無 文	風化ざみ、丁寧な?ナ デ	8mm以下の灰白・暗褐・灰 の粒、2mm以下の黒光沢粒 少	
88	F3d 3557	深鉢	口縁部	I C	IV (30.0)			7.5YR2/1黒	7.5YR8/6浅黄橙	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ、口縁下部→無 文	丁寧なナデ	6mm以下の白・褐・灰白粒 少、4mm以下の黒粒微少、 2mm以下の黒光沢粒少	粘土ひも 接合痕、 穿孔
89	F4a 4150	深鉢	口縁部	I C	IV			10YR5/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ、口縁下部→無 文	風化ざみ、丁寧な?ナ デ	8mm以下の灰白粒微少、1 mm以下の透明粒、4mm以 下の黒光沢粒	
90	E3b 3346	深鉢	胴部	I C	IV			2.5YR4/1黄灰	10YR7/6明黄褐	口縁→貝殻条痕文(横) 後ナデ	ナデ?	5mm以下の灰白・暗灰粒、 黒光沢粒少	
91	F4a 4154	深鉢	胴部	I D	IV			7.5YR3/2黒褐	7.5YR3/3暗褐	楔形貼付突帯、貝殻腹縁 刺突文線(縦位)	風化ざみ、丁寧な?ナ デ	1mm以下の灰白粒多	

第14表 森ノ上遺跡縄文時代早期土器観察表(2)

No.	注記No. 出土位置 (5mGr/1mGr)	器種	部位	分類	層位	口径	底径	外面色調	内面色調	外面文様及び調整	内面文様及び調整	胎土	備考
92	F4a 4253	深鉢	胴部	I D	IV			7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	楔形貼付突帯、風化ざみ	風化ざみ、丁寧な？ナデ	2mm以下の黒・灰白・透明粒 粒微少	
93	F3b 3255 II	深鉢	胴部	I D	II			10YR5/4にぶい黄褐	10YR3/3暗褐	貝殻条痕文(斜)後、貝殻腹縁刺突文線(縦位)	工具ケズリ	1mm以下の黒光沢粒多、1mm以下の白透明粒微少	95と同一か
94	E3d 3849	深鉢	胴部	I D	IV			7.5YR6/8橙	7.5YR6/6橙	貝殻条痕文(斜)後、貝殻腹縁刺突文線(縦位)	工具ケズリ	5mm以下の乳白粒・1mm以下の黒光沢粒微少	94と同一か
95	G2d 2967	深鉢	胴部	I D	IV			7.5YR3/1黒褐 7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/4褐	貝殻条痕文(斜)後、貝殻腹縁刺突文線(縦位)	風化ざみ、工具ケズリ	2mm以下の透明粒・黒光沢粒多、1mm以下の灰白粒少	
96	C4b 4026	深鉢	口縁部	II A	IV			7.5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	押型文(山形 横)	原体条痕(縦)	6mm以下の乳白粒多	102と同一
97	D3d 3939	深鉢	口縁部	II A	IV			10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	押型文(山形)、風化ざみ	押型文(山形)、風化ざみ、工具痕(横)	4mm以下の灰白粒多	
98	D4c 4830	深鉢	胴部	II A	IV			5YR6/8橙	7.5YR6/6橙	押型文(山形 横)	押型文(山形 横)、ナデ	2mm以下のにぶい橙粒・にぶい赤褐粒微少、1mm以下の灰白粒微少	
99	E4d 4748	深鉢	胴部	II A	IV			2.5YR4/6赤褐	2.5YR5/8明赤褐	押型文(山形 横)	丁寧なナデ	2mm以下の褐灰粒多、透明粒・4mm以下の干枚岩粒少	
100	E4b 4046	深鉢	胴部	II A	IV			5YR4/8赤褐	7.5YR3/3暗褐	押型文(山形 横)	丁寧な？ナデ	3mm以下の灰褐粒多	
101	C4b 4225	深鉢	胴部	II A	IV			7.5YR5/6明褐	7.5YR5/4にぶい褐	押型文(山形 横)	丁寧なナデ、指頭圧痕	5mm以下の乳白粒多	97と同一
102	F4c 4554	深鉢	胴部	II A	IV			5YR3/2暗赤褐	5YR3/6暗赤褐	押型文(山形 横)	押型文？(山形 横)、工具ケズリ	2mm以下の灰褐粒多、2mm以下の褐粒・赤褐粒少	
103	D3b 3337	深鉢	胴部	II A	IV			10R5/6赤、 7.5YR7/6橙	7.5YR3/1黒褐	押型文(山形 横)	口縁部→押型文(山形 横)、工具ケズリ、指頭圧痕	3mm以下の褐灰粒多、透明粒・黒粒多	
104	C3d 3929	深鉢	胴部	II A	IV			5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	押型文(山形 横)、風化ざみ	押型文(山形 横)、ナデ、風化ざみ	5mm以下の灰褐粒多	
105	E3d 3948	深鉢	口縁部	II B	IV			5YR2/4極暗赤褐	5YR5/3にぶい赤褐	押型文(楕円 横)、風化ざみ	押型文(楕円 横)、風化ざみ	5mm以下の乳白粒多	
106	E5a 5143	深鉢	口縁部	II B	IV			7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR3/1黒褐	2.5YR4/8赤褐	押型文(楕円 横)後ナデ、工具ナデ？	押型文(楕円 横)、ナデ	2mm以下・2mm以下の褐灰粒多、1mm以下の灰粒微少	
107	F4c 4553	深鉢	胴部	II B	IV			2.5YR4/8赤褐	2.5YR2/1赤黒	押型文(楕円 横)	工具ケズリ	1mm以下の灰褐粒多、黒光沢粒微少	
108	D3d 3938	深鉢	胴部	II B	IV			2.5Y5/1黄灰	10YR7/4にぶい黄橙	押型文(楕円)？、風化ざみ	風化ざみ、ナデ	4mm以下の乳白粒微少、2mm以下の黒・灰白粒・黒光沢粒微少	
109	E4b 4038	深鉢	胴部	II B	IV			5YR4/6赤褐	5YR5/6明赤褐	押型文(楕円)	押型文(楕円)、工具ケズリ	3mm以下の灰褐粒多	
110	E4b 4147	深鉢	胴部	II B	IV			7.5YR5/8明褐	7.5YR5/6明褐	押型文(楕円)	工具ケズリ	3mm以下の灰白粒微少、3mm以下の乳白粒多	
111	F3c 3850	深鉢	胴部	II B	IV			7.5YR5/6明褐	7.5YR4/3褐	押型文(楕円)	押型文(楕円)、ナデ	1mm以下の明赤褐粒微少、穿孔4mm以下の乳白粒多	
112	G3a 3262	深鉢	口縁部	II C	IV			10YR4/2灰黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	燃糸文上に工具による連続刺突文	ナデ	4mm以下の褐灰粒・2mm以下の黒・透明粒多	
113	E4a/E3c 4044/3640	深鉢	口縁部 ～胴部	II C	IV (38.0)			7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR3/1黒褐	7.5YR6/4明褐 7.5YR3/1黒褐	燃糸文(斜)後ナデ	風化ざみ、ナデ	4mm以下の灰白・黒光沢粒多、4mm以下の灰褐	黒斑
114	F4b SI122-1	深鉢	口縁部	II C	IV			10YR7/4にぶい黄褐 7.5YR2/1黒	10YR5/4にぶい黄褐	燃糸文(斜)後ナデ	風化ざみ、工具ナデ	3mm以下の灰白・2mm以下の黒光沢粒多	黒斑
115	D3a 3431	深鉢	口縁部	II C	IV (25.8)			10YR4/4褐、 10YR6/6明黄褐	10YR5/8黄褐	燃糸文？(斜)、風化ざみ	風化が著しく調整不明	5mm以下の乳白粒多、4mm以下の灰白粒微少、2mm以下の黒光沢多	穿孔
116	F4b 4257	深鉢	口縁部	II C	IV			7.5YR7/6橙 7.5YR42/1黒	10YR7/4にぶい黄褐	燃糸文(斜)後ナデ	工具ナデ	2mm以下の黒光沢・灰白粒多、赤褐粒少	
117	G2d 2568	深鉢	口縁部	II C	IV (34.8)			10YR6/4にぶい黄橙 10YR3/2黒褐	10YR3/1黒褐 10YR6/6明黄褐	燃糸文(斜)	工具ナデ？、指頭圧痕	6mm以下の乳白・3mm以下の黒光沢粒多、2mm以下の黒・灰褐粒少、8mm以下の灰白粒微少	粘土ひも 接合痕、 黒斑
118	E4b 4149	深鉢	口縁部	II C	IV			5YR3/1黒褐	5YR4/4にぶい赤褐	燃糸文(斜)後ナデ	貝殻条痕文？(横)後ナデ	4mm以下の灰白・2mm以下の黒光沢粒多、5mm以下の橙粒少	
119	G2d 2868	深鉢	口縁部	II C	IV			7.5YR7/4橙、 7.5YR6/2灰褐	7.5YR6/2灰褐	燃糸文(斜)後ナデ、指頭圧痕	指押さえ後ナデ	3mm以下の灰白粒少、2mm以下の黒光沢粒少	ガジリ痕
120	E3d 3945	深鉢	口縁部	I A	IV			7.5YR5/6明褐	7.5YR3/1黒褐	燃糸文？(横)	押型文(楕円 横)	1mm以下の灰褐粒多、2mm以下の赤褐微少	
121	G2d 2567	深鉢	口縁部	II C	IV			2.5YR7/3浅黄	2.5YR6/2灰黄	燃糸文？(斜・横)後ナデ、指押さえ	貝殻条痕文(横、斜)後ナデ	4mm以下の灰白・黒粒、2mm以下の黒光沢粒少	
122	F3b 3356	深鉢	口縁部	II C	IV			5YR6/6橙、 5YR2/1黒褐	5YR6/8橙、 5YR2/1黒	燃糸文(斜)後ナデ	丁寧なナデ	4mm以下の灰白・3mm以下の黒光沢粒多	黒斑
123	G2d 2665	深鉢	胴部	II C	IV			10YR4/1褐灰 10YR8/6黄橙	7.5YR7/2明褐	燃糸文(斜)、指頭圧痕	丁寧なナデ	4mm以下の白・灰白粒、2mm以下の灰褐・黒粒少	
124	D3d 3739	深鉢	胴部	II C	IV			7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	燃糸文(斜)？後ナデ、指頭圧痕	貝殻条痕文(縦・斜)後ナデ、指頭圧痕	4mm以下の灰白粒多	
125	G2d 2967	深鉢	頸部～ 胴部	II C	IV			10YR7/4にぶい黄橙 10YR4/1褐灰	10YR7/4にぶい黄褐	口縁→燃糸文(斜)、口縁下部→無文、工具ナデ？(縦)後ナデ	ナデ	13mm以下の灰白・2mm以下の黒光沢粒多	黒斑
126	F3c 3754/3942	深鉢	胴部	II C	IV			5YR6/8橙	7.5YR4/2灰褐	燃糸文(横・斜)後ナデ	丁寧なナデ	4mm以下の灰白粒・2mm以下の黒光沢粒多	

第15表 森ノ上遺跡縄文時代早期土器観察表(3)

No.	注記No. 出土位置 (5mGr/1mGr)	器種	部位	分類	層位	口径	底径	外面色調	内面色調	外面文様及び調整	内面文様及び調整	胎土	備考
127	E4b 4346	深鉢	口縁部	Ⅲ	Ⅳ			10YR4/3にぶい黄 橙	10YR4/2灰黄褐	棒状工具による沈線文、 指頭圧痕	丁寧なナデ	1mm以下の黒光沢粒減少、 1mm以下の乳白粒多	
128	F3b 3157	深鉢	胴部	Ⅲ	Ⅳ			10YR6/4にぶい黄 橙	10YR6/4にぶい黄 橙	棒状工具による沈線文後 ナデ、ナデ	ナデ、工具痕	2mm以下の灰白・黒光沢粒 多	
129	E4b 4146	深鉢	口縁部	Ⅲ	Ⅳ			7.5YR7/6橙	10YR7/8黄橙	口縁→棒状工具による刺 突文	風化が著しく調整不明	6mm以下の乳白粒・5mm以 下の褐粒多	外面拓本 のみ
130	E4a 4041	深鉢	胴部	Ⅲ	Ⅳ			7.5YR5/6明褐 7.5YR3/1黒褐	5YR5/6明赤褐	口縁→棒状工具による刺 突文、口縁下部→無文、 ナデ	ナデ	4mm以下の乳白粒多、3mm 以下の白粒・黒光沢粒、2 mm以下の黒・灰褐粒少	穿孔
131	E3d 3847	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR3/2黒褐	7.5YR4/4褐	風化著しく調整不明、指 頭圧痕	風化著しく調整不明、指 頭圧痕	3mm以下の黒・にぶい赤褐 粒少、6mm以下の灰白粒微 少、3mm以下の黒光沢粒微 少、2mm以下の灰白・乳白 粒多	粘土ひも 接合痕
132	G3b 3068	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	ナデ、穿孔	ナデ、穿孔	8mm以下の千枚岩小片微 少、2mm以下の灰白・乳白 粒多	粘土ひも 接合痕
133	G3b 3069	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR7/4にぶい黄 褐	10YR7/6明黄褐	ナデ	風化著しく調整不明	8mm以下の乳白粒・3mm以 下の灰白粒多	
134	D3d 3936	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR7/4にぶい黄 褐	10YR7/4にぶい黄 褐	風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	5mm以下の褐灰粒・4mm以 下の灰白粒多	
135	E4a S16	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR3/1黒褐	7.5YR3/2黒褐	風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	4mm以下の明黄褐粒・3mm 以下の乳白粒多	
136	E4c 4741	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			5YR6/6橙	5YR6/8橙	ナデ	ナデ	2mm以下の乳白粒減少、3 mm以下の灰白・黒褐粒多	
137	E3d 3845	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	横ナデ	貝殻条痕文(横)後ナデ	3mm以下の灰白粒多	
138	F3b 3156	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			2.5YR5/6明赤褐	2.5YR2/1赤黒	ナデ	ナデ	8mm以下の赤灰粒、5mm以 下の黒粒少	粘土ひも 接合痕、 黒斑
139	D5b/D5b 5037/5038	深鉢	口縁部 ～胴部	Ⅳ	Ⅳ (22.0)			2.5Y3/1黒褐	10YR7/3にぶい黄 橙	ナデ、指頭圧痕、黒斑	ナデ、指頭圧痕、黒斑	10mm以下の灰白粒少、6mm 以下の灰粒、3mm以下のに ぶい黄橙粒	粘土ひも 接合痕
140	E3c 3840	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			5YR3/2暗赤褐	5YR3/6暗赤褐	横ナデ	横ナデ、工具痕?	4mm以下の灰白粒多、2mm 以下の黒粒・10mm以下の 千枚岩小片少	粘土ひも 接合痕
141	E3b 3445	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	工具ナデ	貝殻条痕文(横)後ナデ	7mm以下の赤灰粒・6mm以 下の浅黄橙粒減少	粘土ひも 接合痕
142	C5a 5223	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ (13.0)			7.5YR6/8橙	7.5YR7/6橙	風化著しく調整不明	風化著しく調整不明	1. 3mm以下の灰白粒減少、 3mm以下の乳白粒多、3mm 以下の黒光沢粒少	黒斑
143	F2d 2656	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR7/4にぶい黄 橙	2.5YR2/1黒 橙	ナデ	ナデ	7mm以下の灰・にぶい黄橙 粒減少、3mm以下の灰白・ 黒褐粒少	黒斑
144	G2d 2666	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ (16.0)			7.5YR3/1黒褐 7.5YR8/2灰白	10YR2/1黒	ナデ?指頭圧痕	横ナデ、指頭圧痕	3mm以下の灰褐・灰白粒微 少、2mm以下の黒光沢粒微 少	剥落あり、 黒斑
145	F3b 3258	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ (16.1)			7.5YR6/6橙 10YR7/4にぶい黄 橙	7.5YR6/6橙	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ	10mm以下のにぶい黄橙 粒、2mm以下の黒光沢粒微 少	粘土ひも 接合痕
146	C4a 4423	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			7.5YR6/8橙	7.5YR3/1黒褐	ナデ	口縁→貝殻条痕文(縦) 後ナデ、口縁下部→貝 殻条痕文(横)後ナデ	5mm以下の灰褐粒多	粘土ひも 接合痕、 黒斑
147	F4c 4653	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ (35.8)			5YR2/1黒褐 7.5YR33/4暗褐	10YR5/4にぶい黄 褐	横ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	7mm以下のにぶい赤褐粒 減少、4mm以下の暗赤褐粒 多	
148	E4b 4448	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			2.5YR6/8橙	7.5YR6/6橙	横ナデ	貝殻条痕文(横)?後ナ デ	1mm以下の灰白粒多、3mm 以下の褐灰粒少	粘土ひも 接合痕
149	G3a 3163	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			7.5YR6/6橙	7.5YR17/1黒	ナデ	貝殻条痕文(横)後ナデ	9mm以下の灰褐粒多	粘土ひも 接合痕
150	F3b 3155	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR4/3にぶい黄 褐	7.5YR3/3暗褐	横ナデ	横ナデ、指頭圧痕	白色粒減少	
151	E4a 4340	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR4/3黄褐	10YR3/3暗褐	横ナデ	ナデ、指頭圧痕	3mm以下の乳白粒減少、5 mm以下の褐灰粒多	
152	D4d S118	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR8/3浅黄橙	2.5Y5/1黄灰	横ナデ	横ナデ	7mm以下の灰黄粒減少、5 mm以下の乳白粒・にぶい 褐粒減少	
153	G3b 3036	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR7/4にぶい黄 橙	10YR3/2黒褐	ナデ	貝殻条痕文(斜)後ナデ	9mm以下の灰褐粒多、1mm 以下の黒光沢粒少	
154	B4b 4418	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR3/2黒褐	7.5YR6/6橙	風化著しく調整不明	風化著しく調整不明	1mm以下の黒光沢粒減少、 3mm以下の乳白粒多	黒斑?
155	E5a 5343	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			7.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	横ナデ	ナデ	5mm以下の黒光沢粒減少、 4mm以下の橙粒多	
156	F3b 3058	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR7/4黄橙	10YR5/4にぶい黄 褐	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ	4mm以下の灰白粒多	
157	E4c 4642	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ナデ	横ナデ、指頭圧痕	3mm以下の灰白粒	
158	D3c 3632	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			10YR3/2黒褐	10YR5/2灰黄褐	風化著しく調整不明	ナデ、指頭圧痕	2mm以下・5mm以下の黒光 沢粒少	粘土ひも 接合痕
159	E3c 3549	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			7.5YR5/8明褐	10YR5/4にぶい黄 褐	横ナデ、指頭圧痕	横ナデ、指頭圧痕?、 凹み多	2mm以下の黒光沢粒多、2 mm以下の灰白粒減少	
160	G3a 3360	深鉢	口縁部	Ⅳ	Ⅳ			7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	瘤状突起、風化著しく調 整不明	風化著しく調整不明	3mm以下の褐灰粒減少、3 mm以下の灰白粒・にぶい 橙粒・、5mm以下の褐灰粒	

第16表 森ノ上遺跡縄文時代早期土器観察表 (4)

No.	注記No. 出土位置 (5mGr/1mGr)	器種	部位	分類	層位	口径	底径	外面色調	内面色調	外面文様及び調整	内面文様及び調整	胎土	備考
161	F4b 4156	深鉢	口縁部	IV	IV			10YR5/2灰黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	瘤状突起、風化著しく調整不明	風化著しく調整不明	4mm以下の灰白粒少、2mm以下の黒光沢粒微少	
162	G3c 3662	深鉢	口縁部	IV	IV			5YR5/8明褐色	7.5YR6/6橙	瘤状突起、風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明、指頭圧痕	8mm以下の灰白粒・4mm以下の明褐灰粒・4mm以下の褐粒・2mm以下の黒光沢粒	
163	E3b 3447	深鉢	口縁部	IV	IV			7.5YR3/3暗褐	7.5YR4/2灰褐	瘤状突起、風化が著しく調整不明	風化著しく調整不明、指頭圧痕？	1mm以下の明褐灰粒・3mm以下の透明粒・2mm以下の黒光沢粒微少、4mm以下の灰白・灰褐粒多	
164	F3a 3054	深鉢	口縁部	IV	IV			10YR6/6明黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	瘤状突起、風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	4mm以下の乳白粒・3mm以下の黄灰・明褐粒	
165	E4a 4443	深鉢	口縁部	IV	IV			7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/4にぶい黄褐	瘤状突起、横ナデ	指頭圧痕、風化が著しく調整不明	3mm以下の黒褐粒・5mm以下の橙粒、2mm以下の黒光沢粒多	
166	G2d 2468リュウ口	深鉢	口縁部	IV	流路			5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/4にぶい橙	瘤状突起、工具痕、ナデ	ナデ？	5mm以下の灰白粒少、3mm以下の茶褐粒・2mm以下の黒粒微少	
167	E3d 3546Ⅲ	深鉢	口縁部	IV	Ⅲ			7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/4褐	突帯、ナデ？	ナデ？	1mm以下のイ黒光沢粒・3mm以下の褐粒微少、3mm以下の乳白粒	
168	D3d 3536リュウ口	深鉢	口縁部	IV	流路			2.5Y2/1黒 2.5Y8/4淡黄	2.5Y3/1黒褐	突帯(2段)、風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	9mm以下の灰白粒多、3mm以下の白・黒褐粒・黒光沢粒微少	
169	E3d 3746	深鉢	口縁部	IV	IV			10YR4/3にぶい黄褐	7.5YR4/4褐	帯状突起、ナデ？	ナデ？	3mm以下の灰褐粒	
170	D3c 3732	深鉢	胴部	IV	IV			10YR4/4褐	10YR5/3にぶい黄褐	瘤状突起、工具痕？風化著しく調整不明	指頭圧痕、風化著しく調整不明	4mm以下の灰白粒多、3mm以下の黒光沢粒微少	
171	E3d 3747	深鉢	頸部付近～胴部	IV	IV			7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/6明褐	ナデ、指頭圧痕	横ナデ	8mm以下の千枚岩小片多、1mm以下の褐黒灰粒少	粘土ひも 接合痕
172	E3c 3940	深鉢	胴部	IV	IV			7.5YR8/8黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ナデ？、風化ぎみ	丁寧なナデ	5mm以下の乳白粒多、2mm以下の黒光沢粒微少	
173	F3b 3355	深鉢	胴部	IV	IV			2.5YR4/6赤褐	2.5YR2/2極暗赤褐	ナデ、横ナデ、工具痕？(横)	工具ナデ(斜)	6mm以下の千枚岩小片多	
174	E4b 4045	深鉢	胴部	IV	IV			10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	ナデ、風化ぎみ	ナデ、風化ぎみ	4mm以下の乳白粒多・黒粒微少、3mm以下の黒光沢粒	粘土ひも 接合痕
175	G2d 2667	深鉢	胴部	IV	IV			2.5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR3/2黒褐 7.5YR8/6浅黄橙	ナデ？	工具ナデ？(斜)、穿孔(未貫通)、風化ぎみ	3mm以下の乳白粒多、5mm以下の赤橙粒微少、2mm以下の黒光沢粒多	ガジリ痕、土器片加工円盤？
176	D3d 3739	深鉢	胴部	IV	IV			2.5YR4/8赤褐	7.5YR6/6橙	ナデ？、指頭圧痕	貝殻条痕文？(斜・横)後のナデ	6mm以下の千枚岩小片多	粘土ひも 接合痕、黒斑
177	E3d 3548	深鉢	胴部	IV	IV			7.5YR6/4にぶい褐	7.5YR2/2黒褐	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	3mm以下の褐灰多、1mm以下の灰白粒少	粘土ひも 接合痕
178	F3b 3459	深鉢	底部付近	IV	IV			10YR7/4にぶい黄褐	10YR6/2灰黄褐	工具ナデ？	ナデ、指頭圧痕	8mm以下の灰白粒・3mm以下の褐灰粒多	
179	F3b 3257	深鉢	底部付近	IV	IV			10YR7/3にぶい黄橙 10YR4/1褐灰	10YR7/3にぶい黄橙 10YR4/1褐灰	ミガキ？	ナデ、指頭圧痕	1mm以下の灰褐粒多・透明粒少、6mm以下の灰粒微少	
180	G2d S1101	深鉢	底部付近	IV	IV			7.5YR6/6橙	7.5YR3/1黒褐、 7.5YR5/1褐灰	ナデ？	風化著しく調整不明、指頭圧痕	4mm以下の乳白粒・9mm以下の灰白・3mm以下の黒光沢粒多	
181	F3b 3358	深鉢	胴部～底部付近	IV	IV			10YR7/6明黄褐	7.5YR4/2灰褐	ミガキ？	風化が著しく調整不明	3mm以下の浅黄橙粒多	
182	F4c 4850	深鉢	胴部～底部付近	IV	IV			7.5YR6/8橙	7.5YR5/6明褐	風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	5mm以下の乳白粒多、4mm以下の褐粒少	
183	C5d 5028	深鉢	胴部～底部付近	IV	IV			7.5YR7/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/6明黄褐	ナデ、風化著しく調整不明	ナデ、風化著しく調整不明	2mm以下の乳白粒多、	
184	F3b 3458	深鉢	底部付近	IV	IV			10YR7/4にぶい黄褐	2.5YR7/4浅黄	ミガキ？	ナデ？	2mm以下の黄灰粒・灰白粒多	
185	D3c 3733	深鉢	底部付近	IV	IV			10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	ナデ、指頭圧痕	ナデ	5mm以下の灰褐粒・4mm以下の灰白粒多、千枚岩小片	
186	F2d 2955	深鉢	底部付近	IV	IV			5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙	ナデ？	ナデ	2mm以下の黒褐粒微少、3mm以下の乳白粒	
187	F3d 3655	深鉢	底部付近	IV	IV			7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	工具ナデ？	ナデ	7mm以下の千枚岩小片多・黒粒微少	
188	G3c 3560	深鉢	底部付近	IV	IV			7.5YR7/6橙	10YR5/3にぶい黄褐	ミガキ？	ミガキ？	8mm以下の褐灰粒多、2mm以下の黒光沢粒微少	
189	E4b 4447	深鉢	底部付近	IV	IV			10YR7/6明黄褐	10YR7/4にぶい黄橙	風化が著しく調整不明	ナデ？	6mm以下の乳白粒・褐粒多、2mm以下の黒光沢粒少	
190	E3c 3940	深鉢	底部付近	IV	IV			5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	1mm以下の乳白粒多、微細透明粒少	
191	D4c 4034	深鉢	底部付近	IV	IV			7.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	ナデ	ナデ	5mm以下の橙粒多、3mm以下の灰白粒微少	
192	F3b 3357	深鉢	底部付近	IV	IV			10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	ナデ、指頭圧痕	工具ナデ？、指頭圧痕	4mm以下の褐灰粒微少・灰褐粒、2mm以下の灰白粒	
193	E4c 4642	深鉢	底部付近	IV	IV			7.5YR4/4褐	10YR2/3黒褐	風化が著しく調整不明	ナデ？	6mm以下の灰白粒・3mm以下の黒光沢粒多、4mm以下の灰粒少、5mm以下の黒粒	
194	E3b 3347	深鉢	底部付近	IV	IV			2.5YR6/8橙	2.5YR5/6明赤褐	風化が著しく調整不明	ナデ	6mm以下の乳白粒多、1mm以下の黒光沢粒・4mm以下の灰オリーブ粒少	

第17表 森ノ上遺跡縄文時代早期土器観察表(5)

No.	注記No. 出土位置 (5mGr/1mGr)	器種	部位	分類	層位	口径	底径	外面色調	内面色調	外面文様及び調整	内面文様及び調整	胎土	備考
195	G3a 3161	深鉢	胴部～ 底部付 近	IV	IV			10YR7/4にぶい黄 橙	10YR6/3にぶい黄橙 10YR2/1黒	ナデ	ナデ、指頭圧痕	2mm以下の乳白粒多・黒 光沢粒、6mm以下のにぶい 黄橙粒減少	
196	F3b 3256/3257	深鉢	底部付 近(尖 底?)	IV	IV			7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR2/3極暗褐	7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR5/3にぶい褐	風化が著しく調整不明	丁寧な? ナデ	5mm以下の乳白粒多・黒 粒・灰粒・1mm以下の黒光 沢粒少、8mm以下の褐粒微 少	
197	D4b/D4a 4336/4434	深鉢	胴部～ 底部(尖 底)	IV	IV	(0.7)	7.5YR6/1褐灰	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	8mm以下の明褐灰粒微少、 4mm以下の乳白粒・灰白粒 多、2mm以下の黒光沢粒多	
198	E3b 3249	深鉢	底部(尖 底)	IV	IV	1.0	5YR7/6橙 7.5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	丁寧な? ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	8mm以下のにぶい橙粒・乳 白粒、2mm以下の黒褐粒 多	
199	C5a 5020	深鉢	底部(尖 底)	IV	IV	(0.75)	7.5YR8/3浅黄橙	7.5YR2/1	7.5YR2/1	ナデ?、指押さえ	風化著しく調整不明	8mm以下の千枚岩小片多、 2mm以下の赤褐少	
200	D4c 4531	深鉢	底部(尖 底)	IV	IV	(0.75)	10YR6/4にぶい黄 橙	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	丁寧なナデ、工具痕?	ナデ、指押さえ	2mm以下の黒光沢粒減少、 3mm以下の灰白粒・乳白粒 多	
201	E4a 4244	深鉢	底部(尖 底)	IV	IV	0.3	7.5YR6/8橙	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	丁寧なナデ	工具痕? 後ナデ	1mm以下の黒粒減少、10mm 以下の灰白粒多	
202	D3c 3832	深鉢	底部(乳 房尖底)	IV	IV		2.5YR5/6明赤褐	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	ナデ	丁寧な? ナデ、指押さ え	3mm以下の灰褐粒多、3mm 以下の灰粒・微細黒光沢 粒少	
203	E4c 4544	深鉢	底部(乳 房尖底)	IV	IV	(0.4)	5YR4/6赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	ナデ、工具ナデ	ナデ	3mm以下の乳白粒多、3mm 以下の黒光沢粒減少	
204	F3d 3957	深鉢	底部付 近(丸 底?)	IV	IV		5YR3/4	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	ナデ、指押さえ	風化著しく調整不明、工 具痕?	透明粒多、1mm以下の黒光 沢粒・2mm以下の乳白粒少	
205	E4d/E4d 4647/4648	深鉢	底部付 近(丸 底?)	IV	IV		5YR6/6橙	10YR5/2灰黄褐、 5YR6/6橙	10YR5/2灰黄褐、 5YR6/6橙	ナデ	ナデ	5mm以下の灰白粒・橙粒・3 mm以下の黒褐粒減少、2mm 以下の乳白粒少	
206	E3d 3545	深鉢	胴部～ 底部付 近(丸 底?)	IV	IV		5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	丁寧なナデ	丁寧なナデ	13mm以下の千枚岩小片多	
207	G2d 2865	深鉢	底部(丸 底)	IV	IV		10YR7/4にぶい黄 橙	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	丁寧なナデ	丁寧なナデ	10mm以下の灰白粒多、3mm 以下の黒光沢粒・乳白粒 粒減少	
208	F3a 3052	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(5.2)	2.5YR3/6暗赤褐	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐	風化が著しく調整不明	貝殻条痕文?	2mm以下の褐灰粒多・黒光 沢粒少	
209	F3d 3559	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(1.8)?	10YR8/6黄橙	10YR5/2	10YR5/2	風化が著しく調整不明	ミガキ?	2mm以下の白粒多・透明粒 微少	内面拓本 のみ
210	E5a 5343	深鉢	底部(平 底)	IV	IV		10YR8/4浅黄橙	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	4mm以下の灰白粒・灰褐粒 少	
211	E3b 3358	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(7.6)	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR3/1	7.5YR3/1	ナデ	風化著しく調整不明	4mm以下の千枚岩小片少、 3mm以下の灰白粒少	
212	F4a 4051	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(12.6)	5YR4/8赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明	1mm以下の灰白粒多	拓本なし
213	E4c 4841	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(7.2)	10YR5/3にぶい黄 橙	10YR6/6明黄褐	10YR6/6明黄褐	風化が著しく調整不明、 指頭圧痕	ミガキ?	4mm以下の黒粒・2mm以下 の黒光沢粒・3mm以下の赤 褐粒減少、1mm以下の乳白 粒・灰白粒・3mm以下のに ぶい橙粒多	
214	F3b/F4b 3259/4355	深鉢	胴部～ 底部(平 底)	IV	IV	(11.4)	2.5YR6/6橙 2.5YR6/8橙	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	風化が著しく調整不明	風化が著しく調整不明、 指押さえ	2mm以下の乳白粒粒多	
215	C4d 4728	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(4.4)	5YR7/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	2mm以下の明赤褐粒減少、 4mm以下の灰白粒・千枚岩 小片多	
216	E3b 3447	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(4.0)	10YR6/4にぶい黄 橙5YR6/6橙	5YR6/6橙 5YR4/1褐	5YR6/6橙 5YR4/1褐	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕、工具 痕?	4mm以下の灰黄褐粒、5mm 以下の乳白粒	
217	E4c 4943	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(7.6)	10YR5/6黄褐	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	風化が著しく調整不明	ミガキ?	3mm以下の褐灰粒多・褐 粒、黒光沢粒減少	内面拓本 のみ
218	F4a 4351	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(4.0)	10YR8/3浅黄橙	10YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐	ナデ、指頭圧痕	ナデ	2mm以下の乳白粒粒・赤褐 粒減少、4mm以下の灰白粒 多、千枚岩小片	
219	G3c 3563	深鉢	底部(平 底)	IV	IV	(5.0)	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6名褐	7.5YR5/6名褐	ミガキ	丁寧なナデ	3mm以下の乳白粒、微細黒 光沢粒多、4mm以下の灰粒 少、2mm以下の褐粒微少	
220	C5b/C5b 5127/5129	深鉢	胴部～ 底部(平 底)	IV	IV	6.4	10YR7/6明黄褐	10YR5/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄橙	ミガキ	丁寧なナデ	1mm以下の灰褐粒多・黒光 沢粒少	

第18表 森ノ上遺跡縄文時代早期土器観察表(6)







No.	器種名	石材	出土位置 (5mGr/1mGr) 注記No.	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
455	台石	砂岩	B4b/4415No.6	IV	36.8	24.3	5.3	5528.9
456	台石	砂岩	B4b/4415No.7	IV	24.6	18.4	4.9	4102.3
457	台石	砂岩	F3a/3050 リュウロNo.2	流路	50.8	12.9	3.8	3890.7
458	台石	砂岩	D5c/5533No.10	IV	19.8	19.3	7.5	4486.1
459	台石	砂岩	C4a/SI147 ハイセキ	IV	28.5	26.5	10.5	11600.0
460	台石	砂岩	G3c/3860No.4	IV	39.9	22.4	5.4	7500.0
461	台石	砂岩	G2d/2766No.3	IV	56.5	32.4	5.3	12500.0
462	台石	砂岩	E3a/SI132 ハイセキ	IV	27.5	8.3	4.0	1499.0
463	砥石	砂岩	C4c/4623	IV	20.1	11.8	7.0	1700.0
464	砥石	砂岩	F3c/3551	IV	9.1	9.6	3.6	394.0
465	砥石	砂岩	C4b/4329	IV	6.6	7.1	2.4	165.0
466	砥石	砂岩	D4a/4233	IV	10.4	9.2	4.7	620.0
467	砥石	砂岩	C4c/4821	IV	13.8	9.2	4.9	722.0
468	礫器	花崗斑岩	F4c/4851	IV	7.5	7.3	2.9	207.5
469	礫器	花崗斑岩	D3c/3630	IV	10.3	7.1	3.1	288.0
470	礫器	花崗斑岩	C4c/4522	IV	11.0	10.2	3.8	510.0
471	敲石・磨石	花崗斑岩	F3b/3356	IV	13.5	10.5	6.1	1200.0
472	敲石	花崗斑岩	G2b/F4a 2067/4052	IV	8.6	7.0	3.7	328.0
473	敲石・磨石	花崗斑岩	E5b/5148	IV	12.0	8.4	5.0	736.0
474	敲石・磨石	花崗斑岩	E2d/2546	IV	11.7	8.5	4.7	694.0
475	敲石・磨石	花崗斑岩	F3b/3458	IV	13.3	9.2	4.7	850.0
476	敲石・磨石	花崗斑岩	D4d/4838	IV	8.1	6.7	2.9	227.0
477	敲石・磨石	花崗斑岩	D3c/SI145	IV	4.8	3.6	3.2	78.0
478	磨石	花崗斑岩	G3b/3068	IV	9.8	8.2	4.5	536.0
479	敲石・磨石	花崗斑岩	E4b/4045	IV	11.1	8.3	3.9	536.0
480	敲石・磨石	花崗斑岩	G2d/2567	IV	15.0	9.1	6.1	1300.0
481	二次加工剥片	流紋岩	D3d/3639 G2d/2668	IV	8.4	7.2	3.9	287.0
482	敲石・磨石	流紋岩	G2b/2366 リュウロ	流路	5.1	5.2	2.9	112.1
483	敲石	流紋岩	F3a/3352	IV	9.9	7.3	3.9	402.0
484	敲石	流紋岩	D4b/4437	IV	8.6	7.2	4.3	369.0
485	敲石・磨石	流紋岩	D4d/4837	IV	7.3	8.1	2.7	218.0
486	石斧	頁岩	F2a/2252	IV	16.0	17.3	3.4	546.0
487	スクレイパー	頁岩	E3d/3846	IV	11.2	6.3	1.8	97.8
488	スクレイパー	頁岩	D2d/3936	IV	9.7	6.4	1.6	95.9
489	スクレイパー	頁岩	F2a/2353	IV	9.0	5.1	1.8	64.1
490	スクレイパー	頁岩	E4b/4445	IV	9.8	5.3	2.0	108.1
491	スクレイパー	頁岩	G2d/2865	IV	10.3	6.0	1.1	58.0
492	二次加工剥片	頁岩	F4a/4350	IV	5.5	3.1	1.0	14.8
493	二次加工剥片	頁岩	D4a/4434	IV	3.8	3.5	0.7	10.1
494	二次加工剥片	頁岩	C5b/5025	IV	6.7	4.8	1.3	45.2
495	礫器	ホルンフェルス	G3c/3960	IV	7.3	9.6	3.5	286.0
496	礫器	ホルンフェルス	C4c/4620	IV	6.1	7.2	3.0	176.9
497	礫器	ホルンフェルス	F3b/3458	IV	8.8	7.8	3.6	352.0
498	礫器	ホルンフェルス	E4d/4547	IV	12.3	8.0	4.4	520.0
499	礫器	ホルンフェルス	B4b/4219	IV	8.3	10.3	3.5	364.0
500	礫器	ホルンフェルス	G3a/3060	IV	8.2	9.8	3.2	326.0
501	礫器	ホルンフェルス	D5a/5132	IV	7.3	6.5	2.8	183.4
502	礫器	ホルンフェルス	F3d/3957	IV	8.7	8.1	4.0	323.0
503	二次加工剥片	ホルンフェルス	E3c/3740	IV	7.8	5.4	3.4	184.9
504	二次加工剥片	ホルンフェルス	F4c/4750	IV	5.2	7.3	3.7	152.2
505	二次加工剥片	ホルンフェルス	C4a/4223	IV	6.6	6.0	2.2	123.1
506	スクレイパー	ホルンフェルス	D4b/4436	IV	6.3	4.7	1.3	36.9
507	スクレイパー	ホルンフェルス	C5b/5129	IV	8.0	5.3	1.4	79.2
508	スクレイパー	ホルンフェルス	F3b/C4d 3456・4628	IV	9.2	5.9	1.4	88.0

No.	器種名	石材	出土位置 (5mGr/1mGr) 注記No.	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
509	スクレイパー	ホルンフェルス	D4c/4633	IV	4.7	5.9	2.3	79.1
510	礫器	ホルンフェルス	F3c/3851	IV	8.5	9.3	2.2	214.0
511	敲石・磨石	ホルンフェルス	C4d/4525	IV	9.6	6.9	2.5	243.0
512	敲石・磨石	ホルンフェルス	E3d/3549	IV	9.3	3.3	3.1	140.9
513	石斧	ホルンフェルス	F4c/4851	IV	10.8	3.8	2.7	124.7
514	石斧	ホルンフェルス	E4c/4741	IV	12.1	4.5	2.0	144.9
515	石斧か	ホルンフェルス	モリA	表採	14.5	5.9	3.0	369.0
516	石斧未製品か	ホルンフェルス	F2a/2150	IV	3.8	11.3	3.4	173.2
517	二次加工剥片	ホルンフェルス	D4c/4932	IV	9.4	4.3	1.7	95.5
518	二次加工剥片	ホルンフェルス	G2d/2567	IV	7.7	4.2	1.4	65.6
519	二次加工剥片	ホルンフェルス	F3d/3956	IV	9.1	2.8	2.1	81.0
520	石核	ホルンフェルス	F5a/5053	IV	3.3	6.7	4.9	101.2
521	粗製剥片石器	千枚岩	D3c/3934	IV	10.1	8.5	2.3	189.0
522	粗製剥片石器	千枚岩	G3d/3068	IV	11.9	7.5	2.4	233.0
523	粗製剥片石器	千枚岩	F2a/SI59 内レキ	IV	13.6	5.9	1.7	157.8
524	粗製剥片石器	千枚岩	E4b/4346	IV	9.2	8.2	3.4	368.0
525	粗製剥片石器	千枚岩	F4c/4550	IV	9.5	9.5	1.5	145.7
526	粗製剥片石器	千枚岩	D3d/3637	IV	10.5	8.1	4.5	518.0
527	粗製剥片石器	千枚岩	F3b/3256マ	Ⅲ・Ⅳ	14.0	6.8	2.0	263.0
528	粗製剥片石器	千枚岩	G3a/3161	IV	14.6	10.5	2.0	351.0
529	粗製剥片石器	千枚岩	G2b/2265 リュウロ	流路	9.0	7.5	0.6	84.6
530	スクレイパー	千枚岩	F3d/3558	IV	10.1	5.4	1.4	97.0
531	スクレイパー	千枚岩	F2d/2855	IV	10.1	5.3	2.1	136.6
532	スクレイパー	千枚岩	G2b/2468	IV	11.7	8.8	2.3	218.4
533	スクレイパー	千枚岩	G2d/2665	IV	13.0	4.5	1.7	92.9
534	線刻ある剥片	千枚岩	F3b/3458	IV	7.8	3.2	1.0	25.1
535	線刻ある剥片	千枚岩	C4d/4828	IV	2.8	4.0	0.6	7.7
536	線刻ある剥片	千枚岩	C4d/4828	IV	3.3	2.1	0.2	2.1
537	台石	千枚岩	C4a/SI149 ハイセキ	IV	25.5	17.7	2.8	1499.0
538	台石	千枚岩	F3a/3050 リュウロNo.1	流路	52.2	29.3	10.3	20200.0
539	台石	千枚岩	C4d/4929No.5	IV	46.6	32.9	15.9	31800.0

第21表 森ノ上遺跡縄文時代早期石器観察表(3)

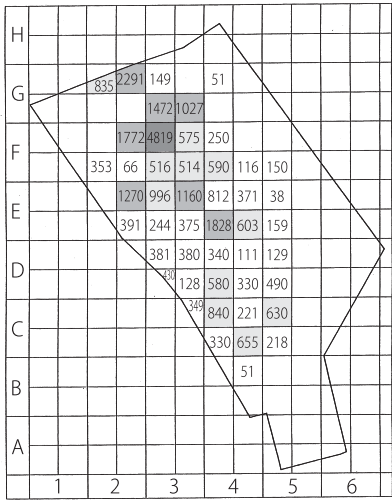




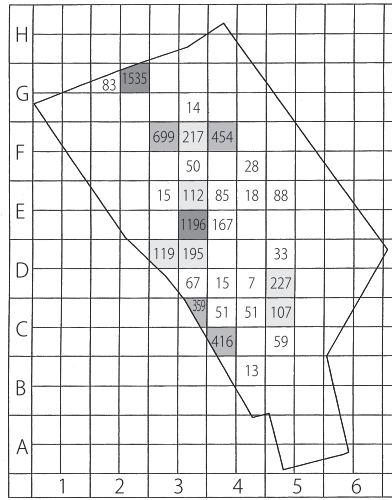
5mGr	チャート(緑色系)		チャート(赤色系)			チャート(他)		安山岩		ホルンフェルス		頁岩		千枚岩		花崗斑岩												
	石鏝	小剥片	石鏝	小剥片	石核	石鏝	小剥片	石鏝	その他	石鏝	その他	数	重量	数	重量	数	重量											
B 4 b																												
B 4 c																												
B 4 d			1	0.2						1	0.3			3	182.6													
C 3 d			1	3.4										1	73.2		1 233.1											
C 4 a	1	1.1								1	11.6			1	123.0	1	63.0 1 1499.0 1 123.1											
C 4 b			1	1.9										1	43.5													
C 4 c			1	23.6									1	1.0	5	826.6		2 149.4										
C 4 d			2	1.7		1	5.4				1	1.2			4	345.7		4 31843.5 2 47.4										
C 5 a			1	1.0		2	12.1								1	18.5		1 130.9										
C 5 b	1	0.9	5	5.4											2	90.8	2	165.1		4 269.4								
C 5 d																												
D 3 a																												
D 3 b																												
D 3 c																												
D 3 d			1	1.6																								
D 4 a	2	3.1	5	9.3	1	0.4	3	1.9		1	1.0	3	0.7	1	0.4													
D 4 b																												
D 4 c			1	0.1																								
D 4 d	1	1.1	3	2.2			3	10.9																				
D 5 a			3	7.5																								
D 5 b						1	5.5																					
D 5 c																												
E 2 c																												
E 2 d																												
E 3 a																												
E 3 b																												
E 3 c						1	7.1																					
E 3 d					1	1.9	6	14.3																				
E 4 a																												
E 4 b																												
E 4 c			1	2.2																								
E 4 d																												
E 5 a						2	7.4																					
E 5 b																												
E 5 C																												
E 5 d																												
F 2 a			1	1.3			2																					
F 2 c																												
F 2 d																												
F 3 a	1	1.8				1	0.1																					
F 3 b			1	0.1		2	7.2																					
F 3 c						1	5.1																					
F 3 d	1	0.7				2	1.1	1	233.7																			
F 4 a																												
F 4 b						1	9.9																					
F 4 c																												
F 4 d																												
F 5 a						2	3.6																					
G 2 b																												
G 2 c																												
G 2 d					1	1.1																						
G 3 a																												
G 3 b																												
G 3 c						1	0.3																					
G 4 a																												
合計	7	8.7	28	61.5	3	3.4	32	98.9	1	233.7	1	1.0	9	16.0	1	0.5	1	1.0	1	1.0	114	9768.2	29	2045.7	26	56696.9	64	15130.1

第24表 森ノ上遺跡縄文時代早期石器分布表(点数・重量)(2)

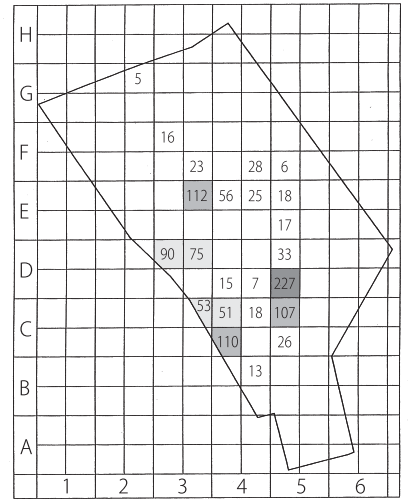
重量(g)



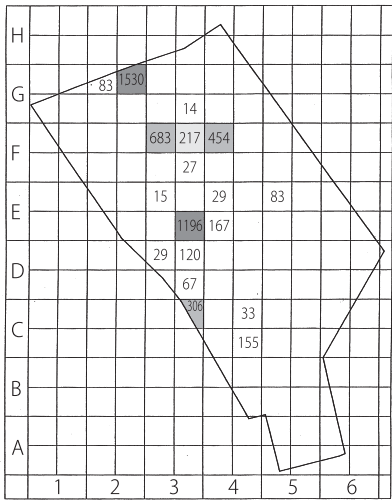
① I類土器 (貝殻文系) (g)



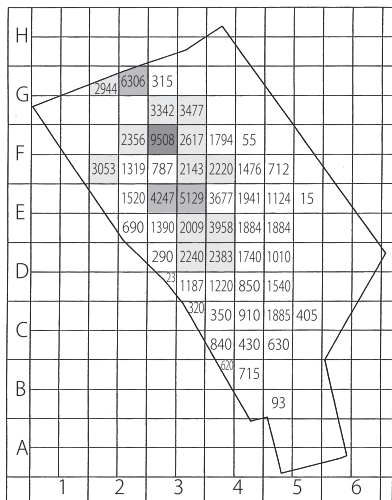
② II類土器 (押型文系) (g)



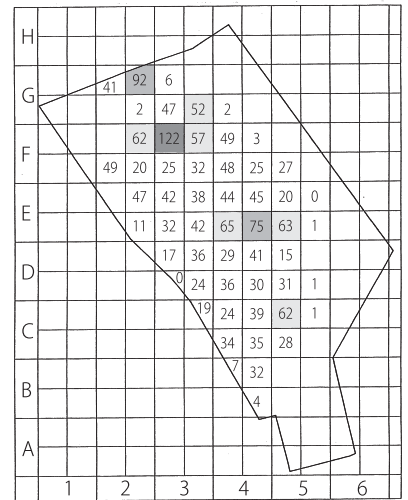
③ II A・II B類土器 (山形・楕円押型文) (g)



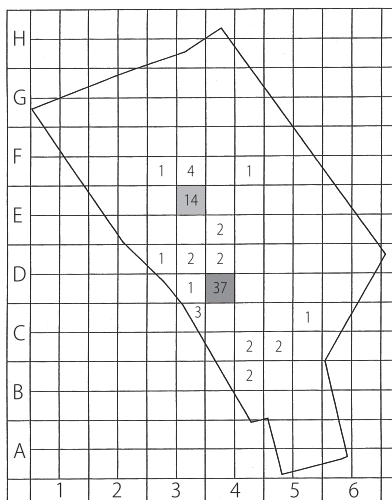
④ II C類土器 (撚糸文) (g)



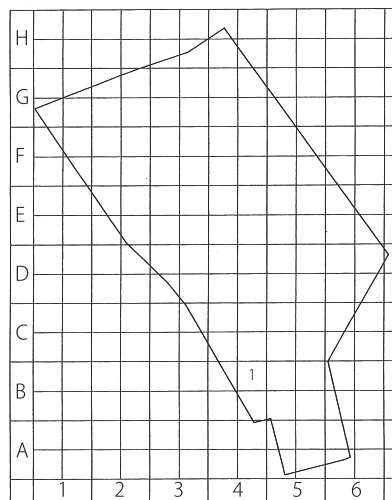
⑤ IV類土器 (無文) (g)



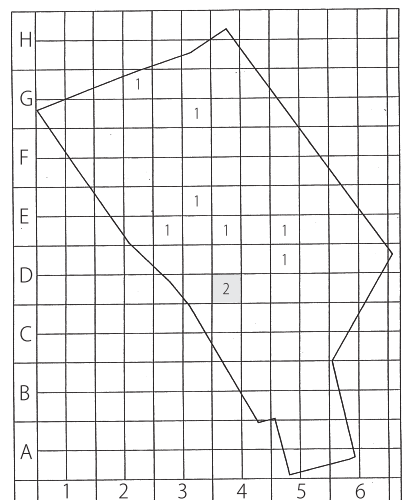
⑥砂岩 (点)



⑦黒曜石 (姫島産) (点)

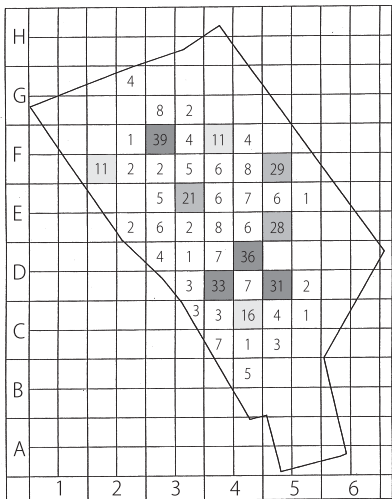


⑧黒曜石 (淀姫産) (点)

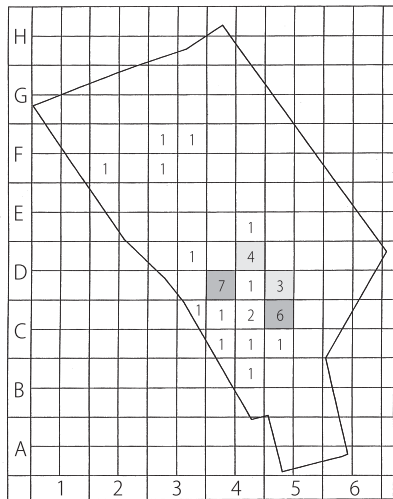


⑨黒曜石 (腰岳産) (点)

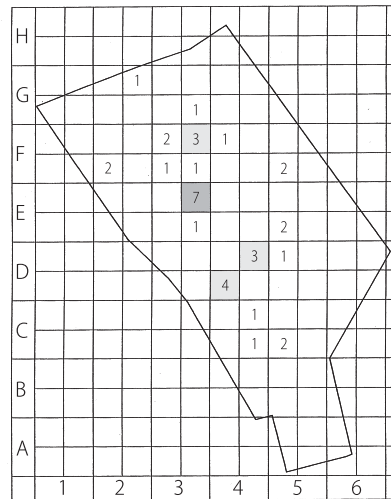
第68図 森ノ上遺跡縄文時代早期遺物分布図(1)



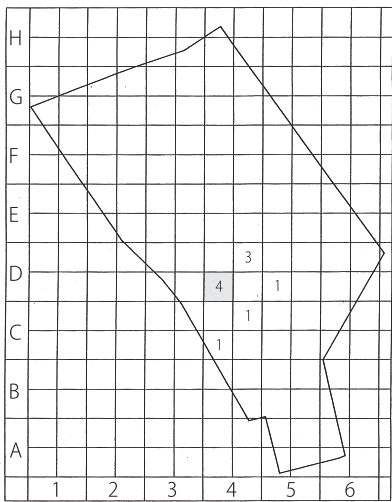
⑩チャート (灰) (点)



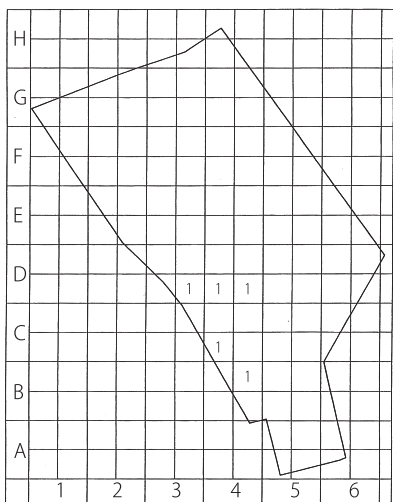
⑪チャート (緑) (点)



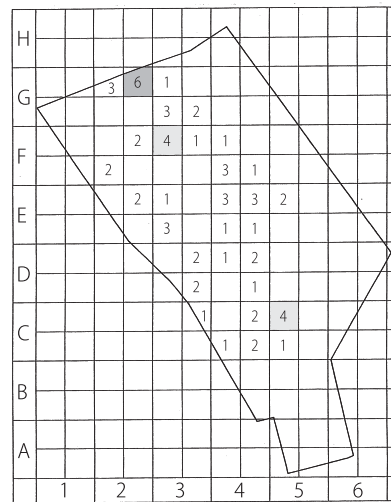
⑫チャート (赤) (点)



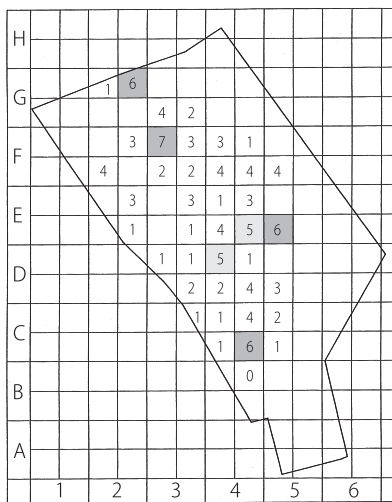
⑬チャート (他) (点)



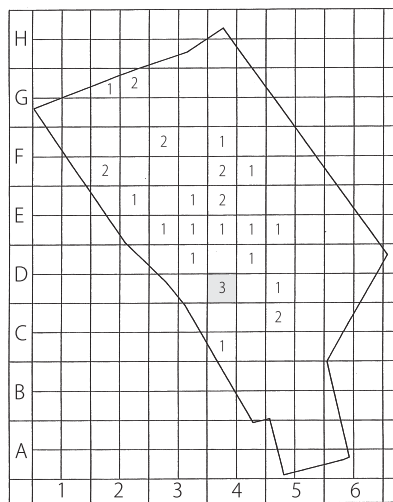
⑭安山岩 (点)



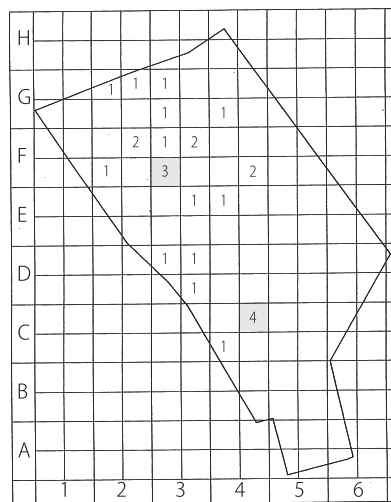
⑮花崗斑岩 (点)



⑯ホルンフェルス (点)

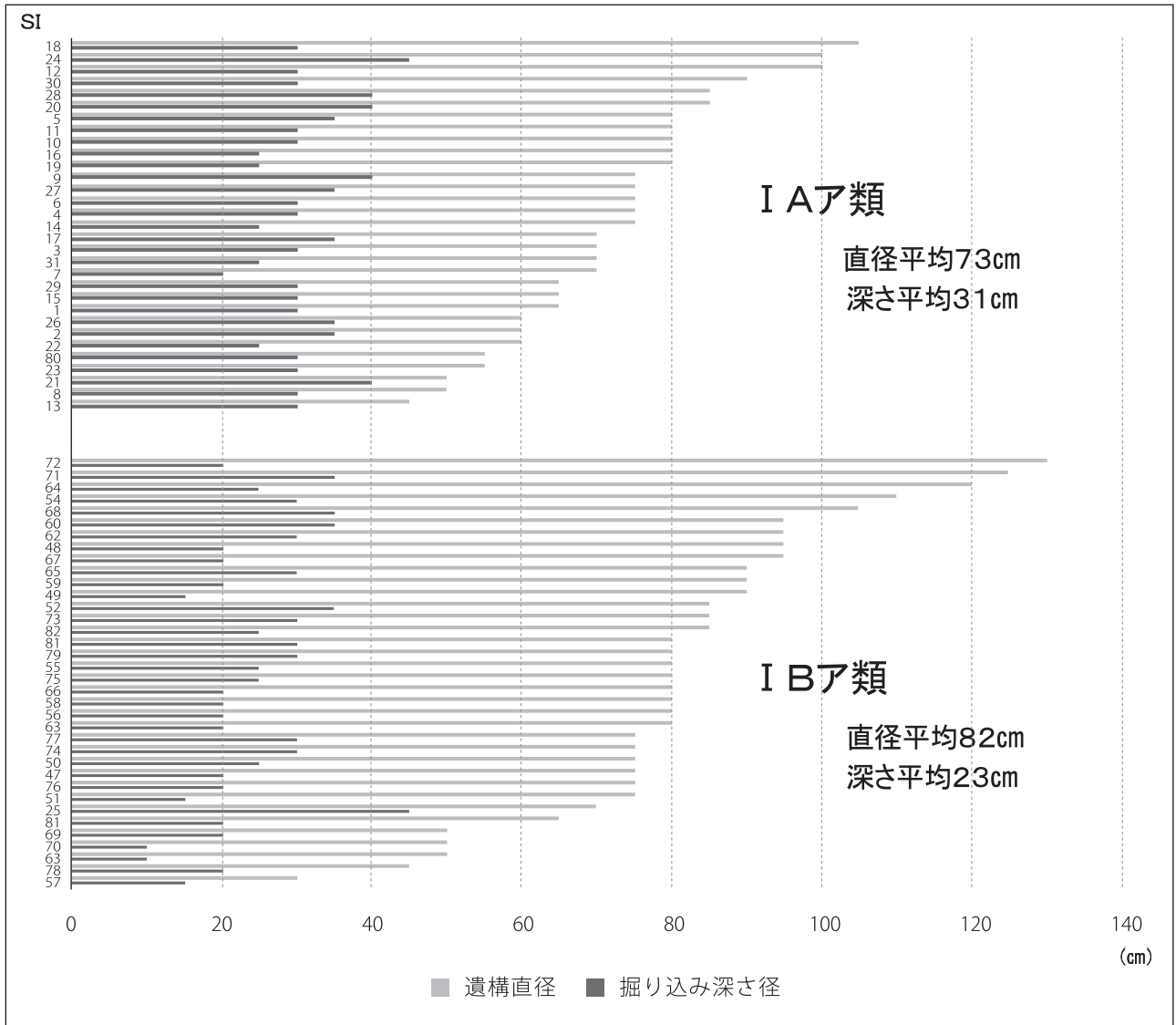


⑰頁岩 (点)

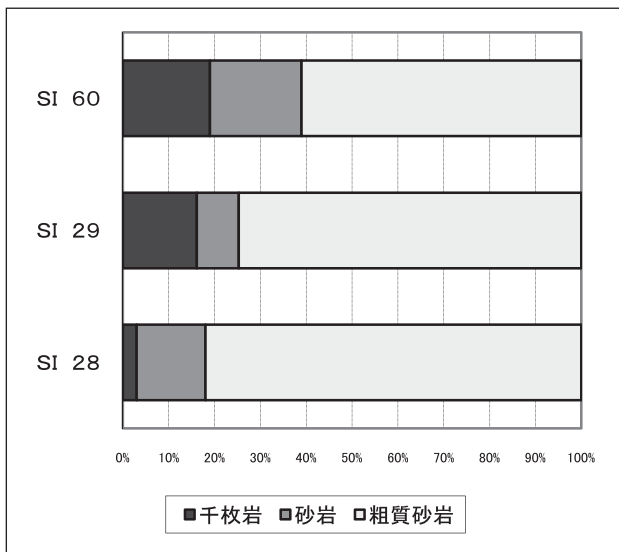


⑱千枚岩 (点)

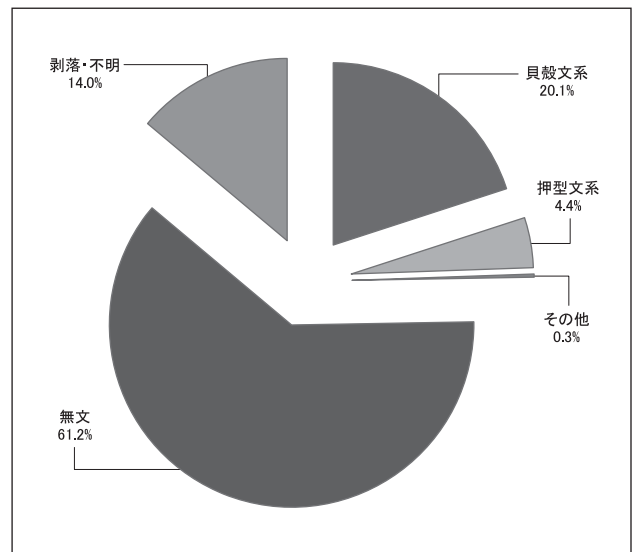
第69図 森ノ上遺跡縄文時代早期遺物分布図(2)



第70図 森ノ上遺跡集石遺構の掘り込み深さと遺構直径



第71図 森ノ上遺跡集石遺構における内部礫石材重量割合



第72図 森ノ上遺跡縄文早期土器分類重量割合



### 第5節. その他の遺構・遺物

ここまで報告してきたA区以外に、B区の弥生～古墳時代集落跡の調査に伴って縄文時代の竪穴建物跡1軒と遺物が確認された。B区については、すでに報告済み(第189集)だが、未報告分をここに記載する。また、A・B区からは中世～近代の遺物も出土している。

#### 【12号住居跡(SA12)】(第73・74図)

SA12は、11基のピットが炉を囲んで楕円形に並ぶ。炉は二次K-Ah(Ⅱ層)中に掘り込まれる。炉やピットの残深が浅いことから、平地式あるいは竪穴が既に削平されたものか判別できない。ピットは、直径30～45cm・残深10～40cmであり、二次K-Ahより若干暗い程度の、地山との識別困難な埋土であった。ピット群からなる楕円形の径は、最大3.2m・最小2.2mである。炉は直径40×35cm・残深5cmで、焼土で充填されていた。炉埋土についてフローテーションしたところ、小粒の炭化物が少量回収された。なお、ピットの1つより縄文時代早期と見られる土器小片が出土したが、これはピットがK-Ah下のⅣ層まで掘り込まれていたためであろう。SA12については遺物を含むⅡ層に掘り込まれており、縄文時代後期から弥生時代中期の可能性が考えられる。

#### 【B区出土の縄文時代の遺物】(第75図)

遺物は二次K-Ah(Ⅱ層)中のものとK-Ah下位のⅣ層中のものがある。Ⅱ層に伴うものとして、遺構検出時に砂岩製磨製石斧(544)の他、チャート製二次加工剥片、流紋岩・チャート・姫島産黒曜石製剥片が出土した。特にSA8周辺より、姫島産黒曜石製剥片・同石核等が目立った。また、古墳時代の竪穴建物跡埋土中から打製石鏃・石核・搬入礫(540～543)の他、

姫島産黒曜石・砂岩製剥片、砂岩製石核がある。SA7精査時のトレンチⅡ層中より時期不詳の土器片がある。また、Ⅳ層露出箇所において、縄文時代早期土器・砂岩製磨石・チャート製剥片が少量採集された。竪穴床面がⅣ層に及ぶ場合、剥離等の特徴からも早期遺物と考えられる赤チャート・ホルンフェルス製剥片が出土している。SA6に重複する攪乱(SZ1)にも早期土器が含まれていた。一方で、集石遺構あるいはそれに伴うであろう赤化礫等は未確認であり、早期については遺物のみの出土となった。B区にもA区と同じく早期包含層が濃密に広がる可能性を踏まえ、簡易なトレンチでⅣ層を精査したものの遺物の包含は顕著でなく、遺物採集までの調査とした。

#### 【A・B区出土の中世・近世以降の遺物】(第75図)

A区Ⅰ層は耕作土ならびに客土であり、地点によっては、水田に伴うマンガン沈着物堆積層が存在した。Ⅰ層中(確認トレンチ含む)からは、18C後半～19Cの広東碗・筒碗の他、ままごと用かと思われる陶器鉢・チャート製火打石(548)等が出土した。

B区は水田ならびに畑地であったが、B1区表土中からは17C後半の肥前系で京焼風の陶器皿(547)・近世の青磁碗・播鉢が出土し、これに関連してかSA3検出時に近世陶磁器等が見られた。SA6に重複する攪乱(SZ1)に近世染付皿が含まれていた。この他、B区一帯で近世～近代の陶磁器が採集された。

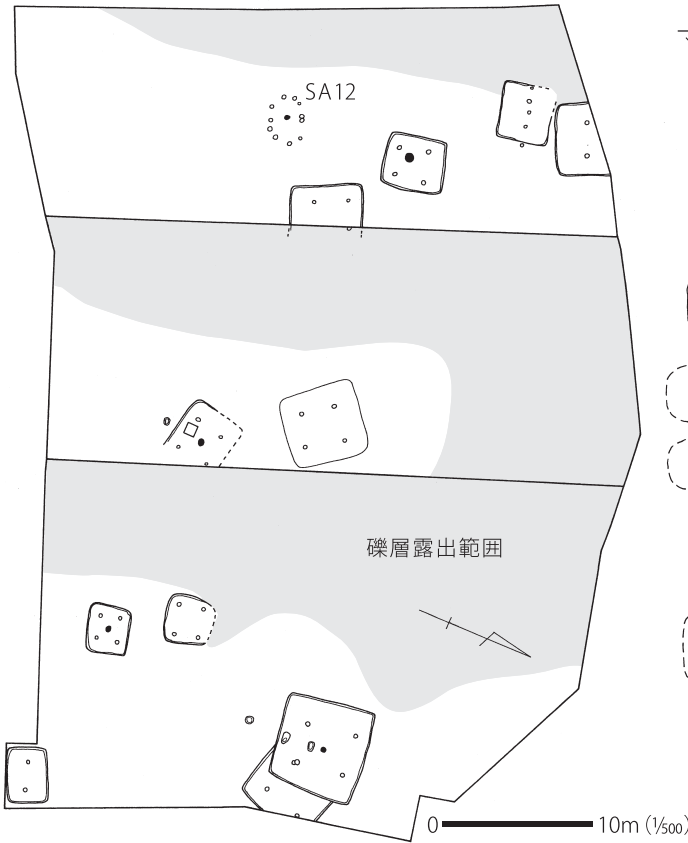
なお、A・B区間にはかつて宅地・豚舎等があり、その整地に伴う客土中には、青磁碗・皿(545・546)等の中世遺物の他、18C後半～19C以降の陶磁器類が含まれていた。(藤木)

NO	器種名	石材	出土位置	注記	時代	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
540	石鏃	チャート	B区 SA4	モリSA4	縄文	2.5	1.9	0.4	1.4
541	石鏃	姫島産黒曜石	B区 SA3	モリSA3	縄文	3.1	1.5	0.5	1.2
542	石核	砂岩	B区 SA8	モリSA8-11	縄文	11.3	8.9	3.1	307.8
543	石斧	ホルンフェルス	B区	モリB-1	縄文	13.9	5.4	2.6	311.5
544	敲石	砂岩	B区 SA3	モリSA3	縄文	15.9	7.7	5.0	836.3
548	火打ち石	チャート	A区 C5A/5320	モリア5320	18世紀後半～19世紀	1.0	1.5	0.8	1.3
N	石斧	蛇紋岩	中野内遺跡 H区南側	ナカウ3セイサ	弥生前～中	7.2	3.2	1.1	52.2

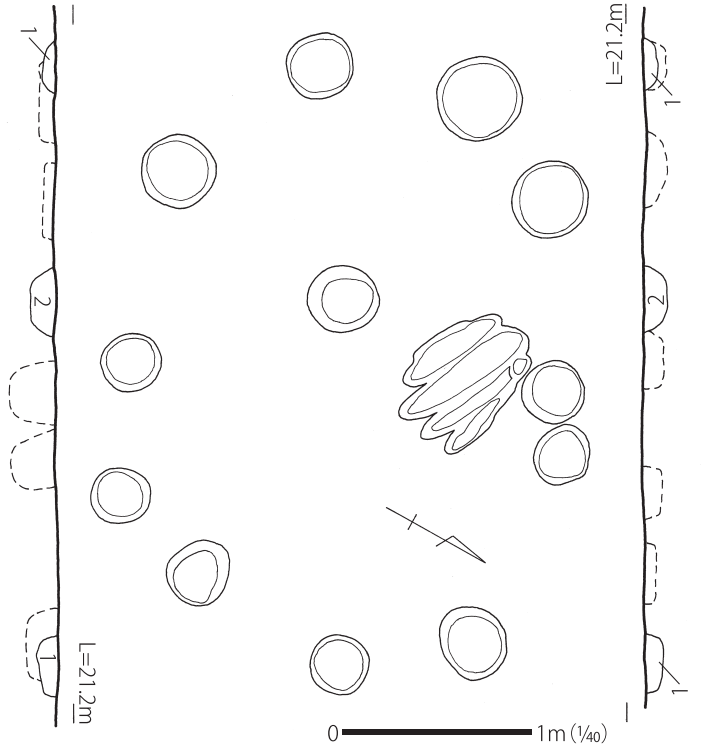
第25表 森ノ上遺跡A・B区その他の遺物観察表(1)

NO	器種名	部位	出土位置	注記	年代	法量(cm)	調整・文様等(外面)	調整・文様等(内面)	備考
545	碗	口縁	A区表探	モリ	12世紀後半		青磁釉	青磁釉	外面に鑄蓮弁文
546	皿	底部	A区表探	モリ	14世紀後半～15世紀前半	底(6.0)	青磁釉	青磁湯・見込に草花文	龍泉窯・底部に釉剥ぎ
547	皿	底部	B区表探	モリB	17世紀後半	底(5.6)	高台内無釉・高台内に「小松」の刻銘	白化粧土	

第26表 森ノ上遺跡A・B区その他の遺物観察表(2)

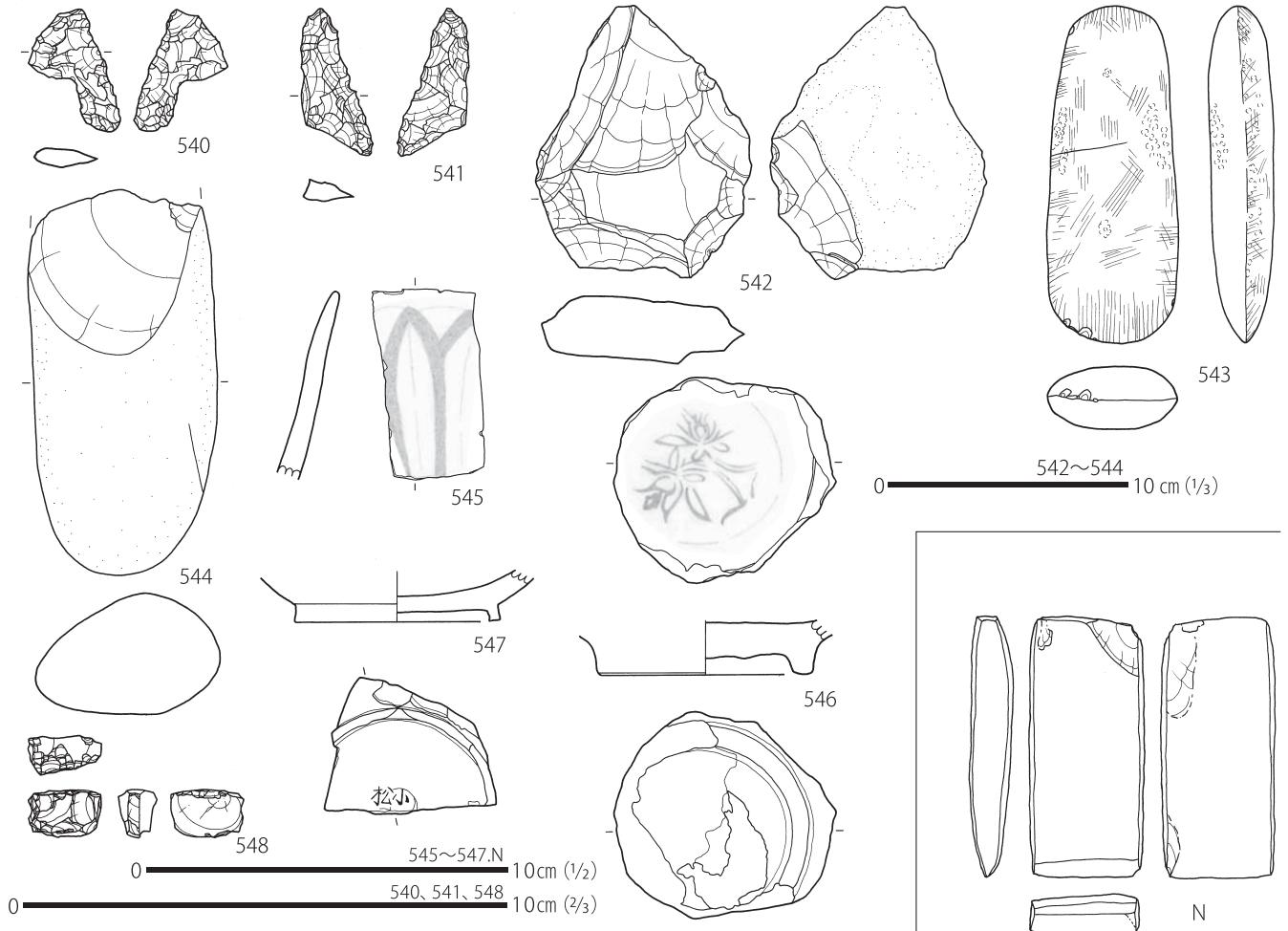


第73図 森ノ上遺跡B区遺構分布図



第72図 森ノ上遺跡B区縄文時代遺構実測図 (SA12)

1. 暗褐色土。K-Ahブロックを多く含む。
2. 焼土粒を含む暗褐色土。地床炉埋土。



第75図 森ノ上遺跡A・B区その他の遺物実測図

## 第6節 小結

これまでの集石遺構や遺物の分類に付け加え、調査区における分布や現状を述べるとともに、考察等を踏まえ小結とする(第68・69図)。

### ・旧石器

縄文時代早期のIV層に混在し、黒色系・白色系の流紋岩製の旧石器が出土している。ナイフ形石器2点のみはF3bグリッドから、スクレイパー、二次加工剥片、石核等は、調査区全域にわたり出土している。

### ・集石遺構

集石遺構の分類では前述の通り、配石となる石材で大別し、次は配石の傾き形状で小別した。掘り込みの不明な集石遺構では、この配石の傾き形状や深さから、概ね掘り込みの断面の形や大きさを推測できる。

主に千枚岩を配石とするものをI類とし、さらに配石の傾き形状がお椀状のものをA類、皿状のものをB類と細分した。A類とB類については、特に基準値は設けず、現地による肉眼観察で行った。また、完形の集石遺構をA類とした。そこで、IAA類とIAB類における遺構の直径と掘り込みの深さについては集計した結果、IAA類はIAB類と比べ、直径は短く、掘り込みが深い傾向が分かった(第70図)。また、多少の崩壊はあるが分類可能であるものをウ類とした。ウ類を含めて集石遺構分布図を作成した結果、多少の混在はあるものの、概ねIA類は調査区西側になる高所範囲、IB類は調査区東側になる低所範囲に分布していることが分かった(第23図)。

また、全体の約25%の40基の集石遺構が切り合っており、そのうちA類の12基については、比較的、A類はA類、B類はB類の同類同士で切り合っている傾向が見られる。他にも、I B イ類は配石が中央部になく、平面形態がドーナツ状だったり、配石の一部がなく掃き出し口のような箇所があるためU字状だったりする。他にも、配石の基底部が見えないほど内部礫が詰まった状態で検出した集石遺構が1割～2割程度、確認されている。ほとんどが赤化しているが、再利用も考慮すると、準備礫・廃棄礫等の判別はできない。

ほとんどの集石遺構が、主に千枚岩を配石としている。しかし、その中で、千枚岩を配石とせず、拳大から人頭大程度の大きさの粗質砂岩のみを配石とする集

石遺構が3基検出されている(II類)。このII類は、調査区南側の尾根付近に共通して分布しており、配石となる粗質砂岩は、内部礫と同質かと思われる。

集石遺構分布図(第23図)から、掘削における実面積は1,400㎡で、検出された集石遺構の占める割合は約8㎡に1基となり、高密度に分布している。

各グリッドにおける集石遺構の分布数と内部礫・散礫の重量は、共通して多いなど何らかの関係性が示されるものかと推察したが、そうではなかった。地形等の影響なのか、本来、関係することのない現状だったのか不明である。また、土石流跡の部分(第18図)においては、集石遺構の分布と内部礫・散礫の重量は共通して少ないことが分かった。これは、調査区の現状が早期以後に生じた土石流がIV層上部を削平していたため、結果的に集石遺構数も内部礫・散礫重量数が少なくなった可能性が高い。もし土石流が生じていなかったら、他にも、風倒木による層位転換や確認トレンチを含む攪乱がなかったら、などと考えると、本調査区はさらに高密度に集石遺構が存在したであろう。さらに、調査区内の排土置き場である未掘箇所や調査区北壁にかかる未検出のものを踏まえると、集石遺構の検出数は、さらに増えたかもしれない。

### ・縄文時代早期土器

本調査区の各分類の土器重量分布から、貝殻文系・無文土器では全体に分布し、特に調査区低所部分の範囲に、多く出土している。また、貝殻文系のIB類・IC類・ID類も同様である。反面、押型文系土器のIIA類・IIB類の重量分布は、調査区高所部分の範囲に、多く出土している。

### ・縄文時代早期石器

石材別点数分布図から、ほとんどの石材は調査区全域から確認されている。しかし、比較的多く出土した灰色系チャートの剥片(チップ含む)と、チャート製石鏃の点数分布を照合すると、集中箇所が把握でき、石鏃製作箇所の特定も考えられる。他にも姫島産黒曜石も集中箇所が確認される。

以上、集石遺構と遺物をそれぞれで分布状況を述べてきたが、集石遺構と遺物との関係やさらなる詳細事項については総括で述べたい。(山田)

## 第VI章 自然科学分析

自然科学分析では、放射性炭素年代測定、種実同定を実施した。野地久保島遺跡での主なフローテーション対象は、調査区西側の年代不明のピット群とピット列である。この自然科学分析は当センター報告書189集第X章に示した分析に続き、特に延岡市北浦町における中世末から近世期のデータを補うものである。種実資料が希薄な宮崎県北部の貴重な資料となること、通史的な植物質食料の変遷が把握されることにおいて重要である。

各分析等の方法・結果等の詳細については、次節以降で報告する。 (黒木誠)

### 第1節 野地久保島遺跡の放射性炭素年代測定・種実同定

株式会社 古環境研究所

#### 1. 放射性炭素年代測定

##### 1-1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器附着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

##### 1-2. 試料と方法

第27表参照。

##### 1-3. 測定結果

###### (1) $\delta$ (デルタ) $^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の  $\delta^{13}\text{C}$  値を  $-25$  (‰) に標準化することで同位体分別効果を補正する。

###### (2) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、現在 (AD1950年基点) から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を用いた。統計誤差は  $1\sigma$  (シグマ) (68.2%確率) である。

###### (3) 暦年代 (Calendar Age) (第28表)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動および $^{14}\text{C}$ の半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な $^{14}\text{C}$ 測定値およびサンゴのU/Th (ウラン/トリウム) 年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線データはIntCal 09、較正プログラムはOxCal 3.1である。

暦年代 (較正年代) は、 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により  $1\sigma$  (68.2%確率) と  $2\sigma$  (95.4%確率) で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の  $1\sigma \cdot 2\sigma$  値が表記される場合もある。( ) 内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{14}\text{C}$ 年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す (第29表 (1)・(2) 参照)。

##### 1-4. 所見

加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定の結果、No 1 の炭化材では  $1550 \pm 25$  年BP ( $2\sigma$  の暦年代でAD420~570年)、No 2 の炭化材では  $350 \pm 20$  年BP (AD1460~1640年)、No 3 の炭化材では  $380 \pm 20$  年BP (AD1440~1530, AD1570~1630年)、No 4 の炭化材では  $1555 \pm 20$  年BP (AD430~560年)、No 5 の炭化材では  $365 \pm 20$  年BP (AD1450~1530, AD1550~1640年)、No 6 の炭化材では  $3575 \pm 25$  年BP (BC2020~1990, BC1980~1870年)、No 7 の炭化材では  $345 \pm 20$  年BP (AD1460~1640年)、No 8 の炭化材では  $1240 \pm 20$  年BP (AD680~870年)、No 9 の炭化材では  $110 \pm 20$  年BP (AD1680~1740, AD1800~1930年)、No 10 の炭化材では  $1840 \pm 20$  年BP (AD90~100, AD120~240年) の年代値が得られた。

#### 文献

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy, The OxCal Program, Radiocarbon, 37(2), p.425-430.  
Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43, 355-363.  
Paula J Reimer et al., (2009) IntCal 09 and Marine 09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP, Radiocarbon, 51, p.1111-1150.  
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代, p. 3-20.

試料No.	地点・層準	種類	前処理	測定法
No. 1	分析番号135, S103	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 2	分析番号136, S104	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 3	分析番号137, S105	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 4	分析番号138, S106	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 5	分析番号139, S107	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 6	分析番号140, S121	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 7	分析番号141, S122	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 8	分析番号142, S123	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 9	分析番号143, S249	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.10	分析番号144, S312	炭化材	超音波洗浄, 酸-アルカリ-酸処理	AMS

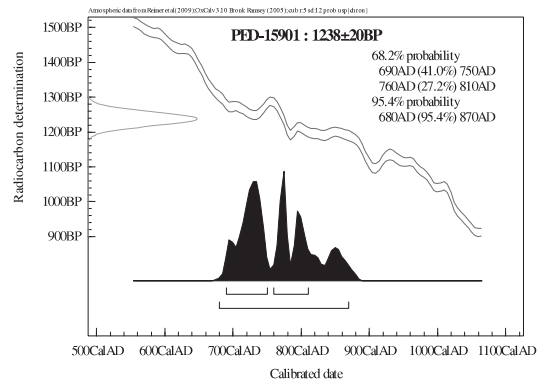
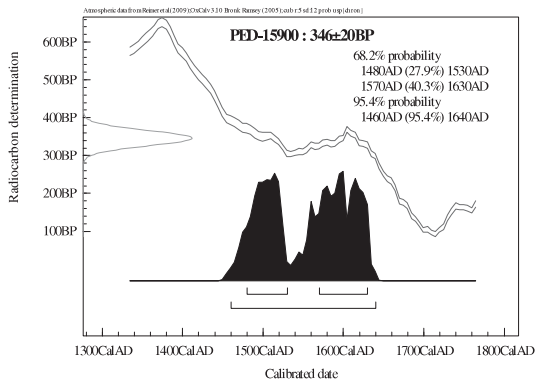
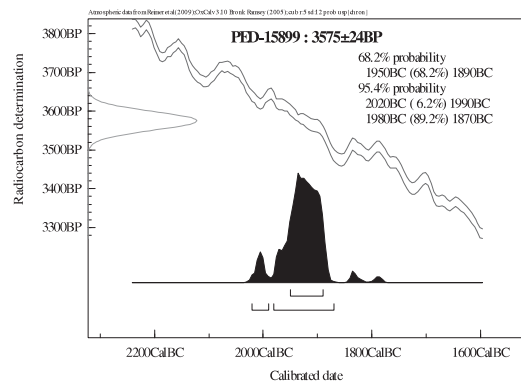
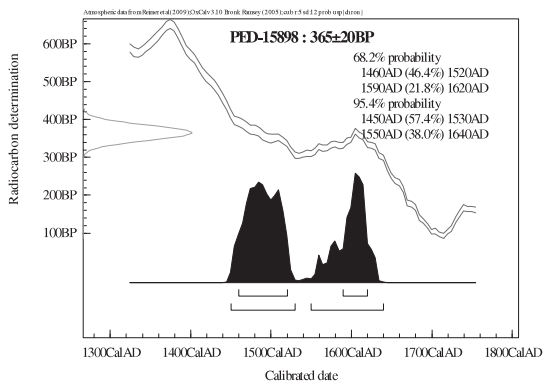
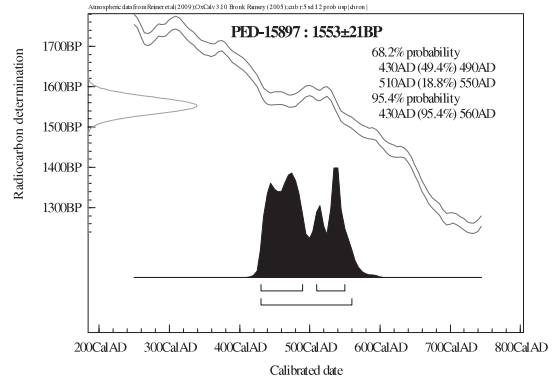
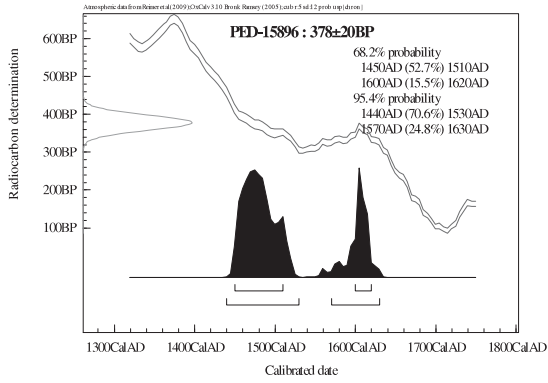
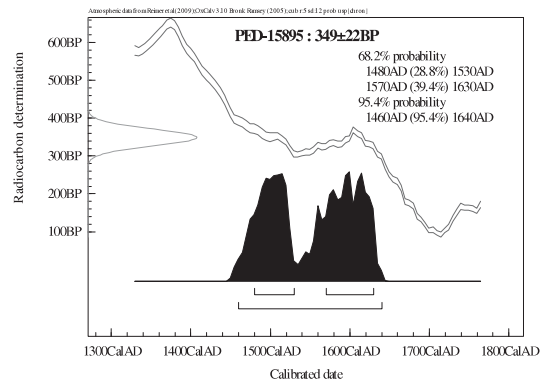
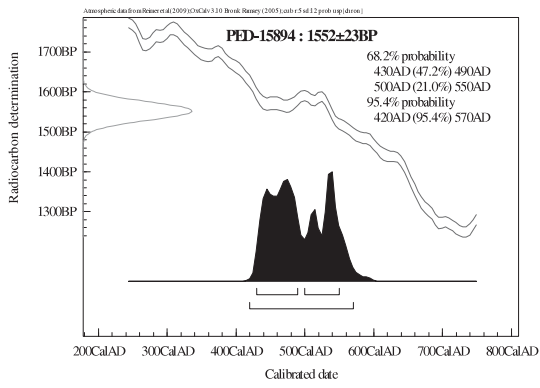
AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

第27表 放射性炭素年代測定 試料と方法

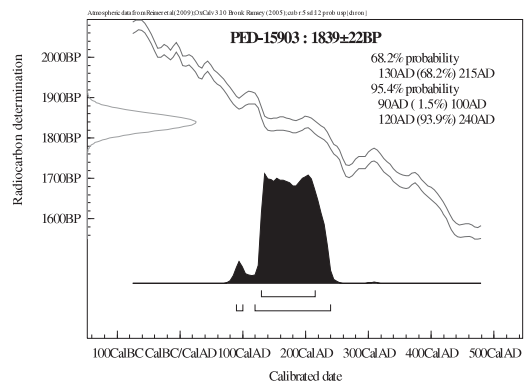
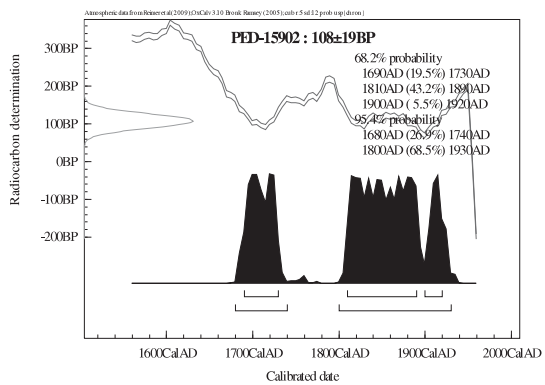
試料No.	測定No. (PED-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 (較正年代)	
				1 $\sigma$ (68.2%確率)	2 $\sigma$ (95.4%確率)
No. 1	15894	-28.20±0.15	1550±25	AD430-490 (47.2%) AD500-550 (21.0%)	AD420-570 (95.4%)
No. 2	15895	-28.18±0.16	350±20	AD1480-1530 (28.8%) AD1570-1630 (39.4%)	AD1460-1640 (95.4%)
No. 3	15896	-25.85±0.13	380±20	AD1450-1510 (52.7%) AD1600-1620 (15.5%)	AD1440-1530 (70.6%) AD1570-1630 (24.8%)
No. 4	15897	-29.58±0.17	1555±20	AD430-490 (49.4%) AD510-550 (18.8%)	AD430-560 (95.4%)
No. 5	15898	-26.59±0.20	365±20	AD1460-1520 (46.4%) AD1590-1620 (21.8%)	AD1450-1530 (57.4%) AD1550-1640 (38.0%)
No. 6	15899	-27.31±0.22	3575±25	BC1950-1890 (68.2%)	BC2020-1990 ( 6.2%) BC1980-1870 (89.2%)
No. 7	15900	-27.01±0.14	345±20	AD1480-1530 (27.9%) AD1570-1630 (40.3%)	AD1460-1640 (95.4%)
No. 8	15901	-26.70±0.19	1240±20	AD690-750 (41.0%) AD760-810 (27.2%)	AD680-870 (95.4%)
No. 9	15902	-28.72±0.15	110±20	AD1690-1730 (19.5%) AD1810-1890 (43.2%) .AD1900-1920 ( 5.5%)	AD1680-1740 (26.9%) AD1800-1930 (68.5%)
No.10	15903	-28.07±0.12	1840±20	AD130-215 (68.2%)	AD90-100 ( 1.5%) AD120-240 (93.9%)

BP : Before Physics (Present) , BC : 紀元前, AD : 紀元後

第28表 放射性炭素年代測定 暦年代



第29表 曆年較正結果 (1)



第29表 曆年較正結果 (2)

## 2. 種実同定

### 2-1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

### 2-2. 試料

試料は、江戸時代のピットなどから採取された水洗選別済み試料134ケースである。

### 2-3. 方法

肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

### 2-4. 結果

樹木1、草本5分類群が同定された。学名、和名および粒数を第30表に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し、写真(図版51)に示したもののサイズを示す。

[樹木]

ヤマモモ? *Myrica rubra* S. et Z.? 核(破片) ヤマモモ科

黒褐色で表面は粗い。破片であるためヤマモモ?とした。

[草本]

オヒシバ *Eleusine indica* Gaertn. 種子 イネ科:長さ×幅・1.67mm×0.79mm

黒色で楕円形を呈す。表面には波状の模様がある。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 果実 イネ科:長さ×幅・4.85mm×2.98mm、3.63mm×2.02mm

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳の接する輪郭線は山形である。

ムギ類(オオムギ-コムギ) *Hordeum-Triticum* 果実(破片) イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが、発泡して詳細が不明なためムギ類とした。

カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 果実:長さ×幅・1.79mm×1.30mm

茶褐色でやや狭い倒卵形を呈す。断面は両凸レンズ形である。

マメ科 *Leguminosae* 種子 マメ科:長さ×幅×厚さ・1.63mm×1.43mm×1.50mm

黒色で楕円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。不明植物遺体

植物遺体と思われるが、炭化し表面模様が観察できないため種実かどうかは不明。

炭片

種実ではない炭化物。

炭化材片

炭化した木材の小片。

### 2-5. 所見

種実同定の結果、ヤマモモ?、オヒシバ、オオムギ、ムギ類、カヤツリグサ科、マメ科が同定された。このうち、オオムギおよびムギ類(オオムギ-コムギ)は栽培植物であり、マメ科には食用となるものがある。なお、種実類として選別されていたものの多くは、炭化材などの炭片であった。

#### 文献

- 笠原安夫(1985)日本雑草図説, 養賢堂, 494p.  
 笠原安夫(1988)作物および田畑雑草種類. 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣出版, p.131-139.  
 南木睦彦(1991)栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通I, 雄山閣出版株式会社, p.165-174.  
 南木睦彦(1993)葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276-283.  
 吉崎昌一(1992)古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナルNo.355, ニューサイエンス社, p.2-14.



分析 番号	番号	分類群		部位	個数	備考
		学名	和名			
1	S2					炭片3
2	S5					炭片1
3	S9					炭片1
4	S11					炭片1
5	S12					炭片1
6	S13	Unknown plants	不明植物遺体		1	
7	S15					炭片1
8	S24					炭片2
9	S32	<i>Hordeum vulgare</i> L.	オオムギ	果実	1	炭片1
10	S33					炭片2
11	S35					炭片1
12	S36					炭片1
13	S37					炭片5
14	S38					炭化材片1、炭片4
15	S42					炭片1
16	S43					炭化材片1
17	S44					炭片1
18	S49	Unknown plants	不明植物遺体		4	
19	S50					炭片3
20	S51					炭片2
21	S52					炭片4
22	S55	<i>Hordeum-Triticum</i>	ムギ類	果実(破片)	1	炭化材片1、土塊1、炭片2
23	S57					炭片1
24	S58					炭片1
25	S61					炭片4
26	S62					炭片3
27	S64					炭片1
28	S67					炭片2
29	S68					炭片2
30	S70	Unknown plants	不明植物遺体	(破片)	12	炭片1
31	S71					炭片1
32	S72					炭片1
33	S73					炭片1
34	S84					炭片2
35	S86					炭片1
36	S89					炭片1
37	S91					炭片3
38	S95					炭片1
39	S96					炭片1
40	S103					炭片1
41	S106					炭片1
42	S107	Leguminosae	マメ科	果実	1	
43	S108	<i>Eieusine indica</i> Gaertn.	オヒシバ	果実	1	炭片1
44	S109					炭化材片2
45	S115					炭化材片1、炭片3
46	S122					炭片1
47	S123					炭片4
48	S128					炭片1
49	S131					炭片8
50	S133					炭片1
51	S139					炭片1
52	S145					土塊1、炭片1
53	S146					炭片1
54	S148					炭片5
55	S149					炭片1
56	S152					炭片4
57	S156					炭片1
58	S158					炭片3
59	S160					炭片1
60	S162	Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	1	炭片2
61	S163					炭化材片1
62	S165					炭片3
63	S168	<i>Myrica rubra</i> S. et Z.	ヤマモモ	核 (破片)	2	炭片5
64	S173					炭片3
65	S180					炭片1
66	S189					炭片2

第30表 野地久保畠遺跡における種実同定結果

67	S191					炭片4
68	S196					炭片2
69	S197					炭片4
70	S198					炭片29
71	S199					炭化材片1、炭片4
72	S203					炭片3
73	S204					土塊1、炭片2
74	S207					炭片1
75	S208					炭片1
76	S214					炭片1
77	S217					炭片1
78	S221					炭片1
79	S223					炭片4
80	S226					炭片1
81	S228					炭片2
82	S237					炭片1
83	S245					炭片1
84	S248					炭片3
85	S249					炭化材片1、炭片3
86	S251					炭片1
87	S259					炭片1
88	S262					炭片8
89	S272					炭片5
90	S273					炭片3
91	S275					炭片1
92	S278					炭片1
93	S279					炭片2
94	S282	Unknown plants	不明植物遺体		1	炭化材片1
95	S289	Unknown plants	不明植物遺体		1	
96	S297					炭片1
97	S301					炭片2
98	S303					炭片1
99	S304					炭片10
100	S305					炭片4
101	S307					炭片1
102	S308					炭片1
103	S309	Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	1	炭片7
104	S314					炭片7
105	S315					炭片1
106	S317					炭片5
107	S318					炭化材片1、炭片2
108	S320					炭片1
109	S321					炭片1
110	S322					炭片2
111	S325					炭片1
112	S328					炭片2
113	S330					炭片1
114	S334					炭片5
115	S340					炭片3
116	S341					炭片1
117	S345					炭片1
118	S350					炭片1
119	S353					炭片1
120	S366					炭片1
121	S370					炭片2
122	S374					炭片1
123	S381					炭片2
124	S382					炭片1
125	S383	<i>Hordeum vulgare</i> L.	オオムギ	果実	1	
126	S387					炭片1
127	S389					炭片3
128	S392	<i>Hordeum-Triticum</i>	ムギ類	果実(破片)	1	炭化材片1
129	S393					炭片1
130	S403					炭片1
131	S406					炭片1
132	S409					炭片1
133	SZ1					炭片2
134	SC2					炭片4

## 第2節 宮崎県延岡市北部地域出土土器および関連資料の考古科学的分析

鹿児島国際大学 中園 聡

### 1. はじめに

宮崎県延岡市北浦町所在遺跡を中心とする宮崎県東北部の土器に関し、蛍光X線分析による胎土分析等を実施した。分析対象は縄文時代早期土器と古墳時代前期・中期の土師器のほか弥生土器、須恵器、土壌・砂礫である。以下、分析結果を報告し、考察する。

### 2. 試料

延岡市北浦町の数百m圏内に分布する中野内遺跡・森ノ上遺跡A・B区・野地久保島遺跡、そこから3km余り離れた同市熊野江地区のカラ石の元遺跡の試料のほか、比較試料として宮崎県南部の都城市平峰遺跡の土器1点を分析した。宮崎県埋蔵文化財センターにより選択・採取された以上89点のうち、微量であった1点を除く88点を試料とした(第31表)。

中野内遺跡の試料の主体は古墳中期中葉～後葉の土師器で、前期の土師器1点、TK47以降とされる須恵器1点、弥生土器(中期6・後期1点)もある。森ノ上遺跡A区が縄文早期前葉、B区が古墳前期頃である(弥生後期後葉や終末期とされるものも含むが古墳前期に一括)。なお、畿内系古式土師器(布留式)甕3点もある。古墳中期中葉2点、後期2点もあるが、中野内遺跡と主体となる時期にずれがある。粘質土(砂礫を含む)は森ノ上Aの縄文早期土器包含層下部からの採取である。砂礫は同センターにてその粘質土を洗浄し抽出されたもので、泥質岩由来で灰色の薄い板状のものを主体とする。他遺跡の試料は少数で、野地久保島遺跡は弥生土器と古墳中期の土師器が各1点、カラ石の元遺跡は古墳中期の土師器高坏3点である。なお、本地域の土器は泥質岩由来の砂礫を含む特徴的な胎土をもつが、都城市平峰遺跡出土土器1点は同質と疑われたものである。

### 3. 分析方法

鹿児島国際大学考古学実験室において分析した。実施に先立ち、全試料の写真撮影と特徴の観察を行った。胎土は肉眼のほか実体顕微鏡を併用し低倍率で観

察した(第31表)。

分析は三辻(1991、1994ほか)の方法を基本とした。土器試料はモニターで研削し表面の汚染を除去した。砂礫はよく混ぜて使用した。粘質土は風乾後、塊内部を使用した。タングステンカーバイド乳鉢で微粉碎し、定温乾燥機で乾燥後(105℃で2時間)、リング法(内径20mm、厚さ5mmのPVCリング)で加圧成形(約130kN)した。装置は波長分散型蛍光X線分析装置(リガク製ZSX100e)を使用し、エンドウィンドウ型Rh管球(管球出力3.0kW)を備え、分光結晶RX25、LiF1、恒温化温度36.5℃、真空条件下で同一のX線出力(50kV、50mA)で各元素60秒測定した。1セット(最大47試料)ごとに定量分析の標準試料として岩石標準試料JG-1を測定し、自動分析の定常状態での進行の確認も行った。Na、Mg、K、Ca、Ti、Fe、Rb、Srの8元素を測定した。分析値は、各元素のX線強度(Net強度)をJG-1のそれを使った標準化値として示す注1)(第31表)。本法は実績のあるK-Ca、Rb-Sr両図の視察を基本とするが、対象試料は有色鉱物の効果等が大と想定されたため他の元素についても検討を行った。クラスター分析も実施した。

### 4. 結果と考察

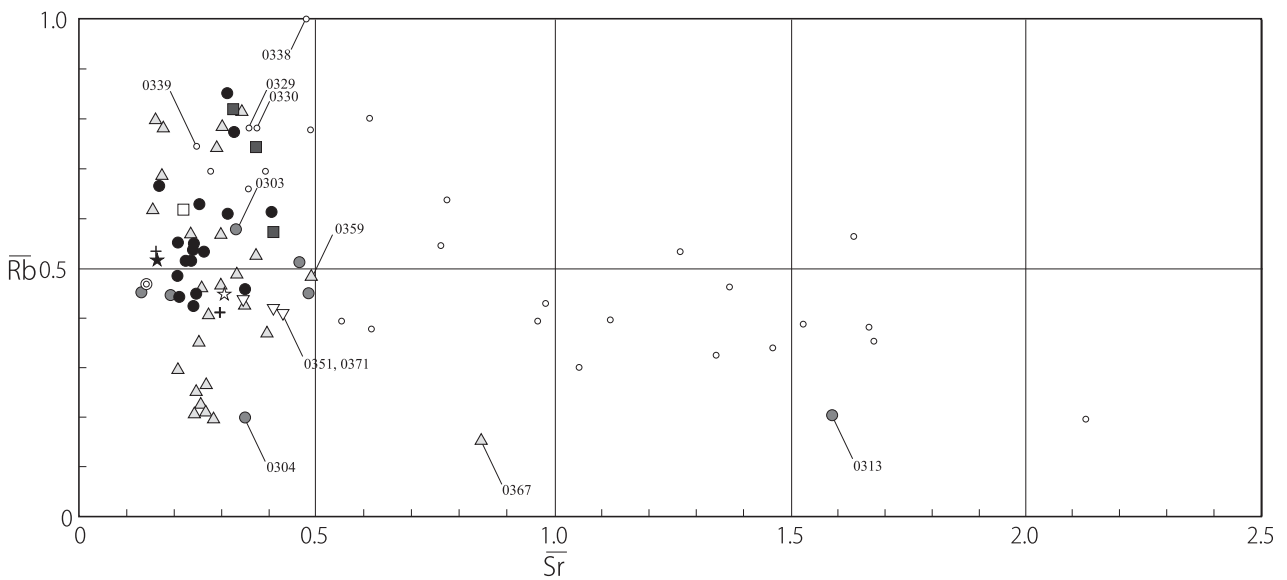
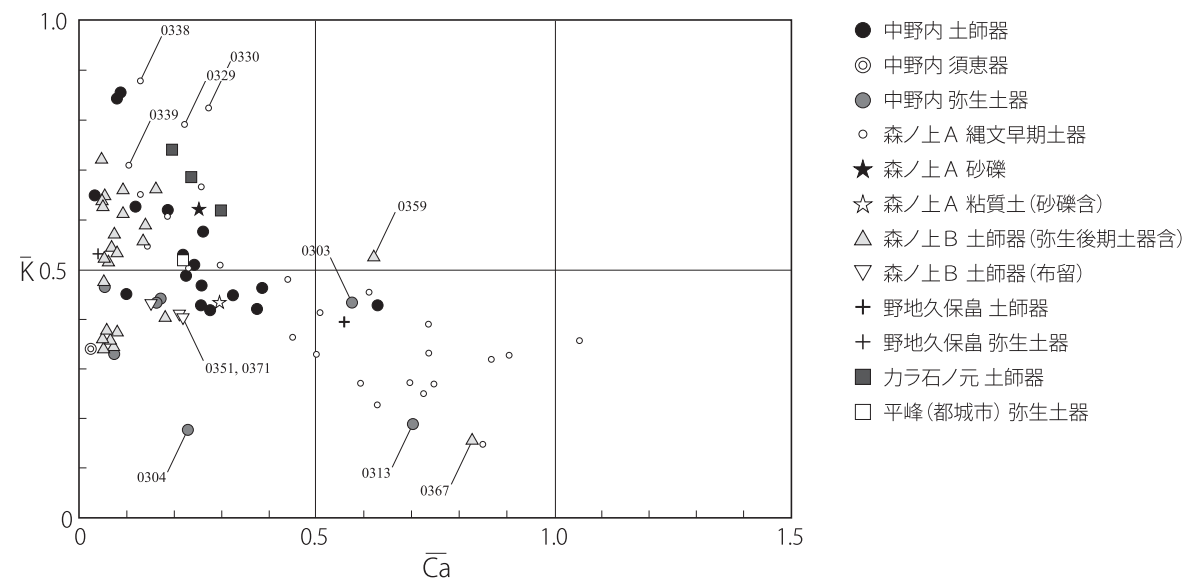
#### 4-1. 分布図の視察(第76・77図)

##### 在地系土師器

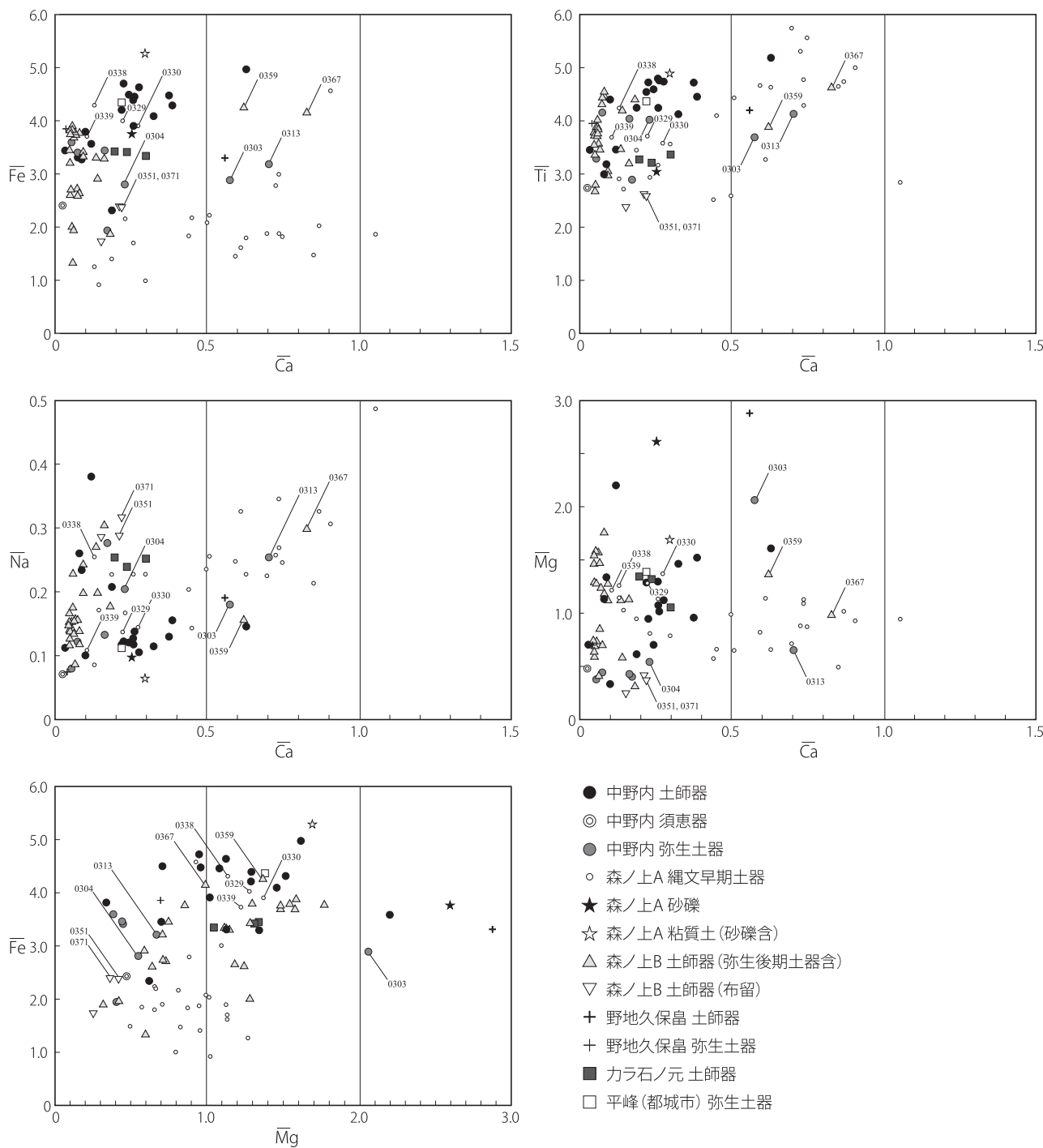
K-Ca図では、両元素間に概ね逆相関の関係がある。森ノ上Bの土師器は外れ値をとる0359、0367を除き、Ca値が0.1前後にまとまるとともにK軸方向に展開する。一方中野内の土師器は、一部で森ノ上Bのそれと重なりつつも、K値が大きくCa値が小さいものから、K値が相対的に小さく(0.4<K<0.5)Ca値が大きなものまで連続的に展開し、両元素間で逆相関の関係がある。したがって、中野内と森ノ上Bで主体となる土師器は、重なりつつもCaの重心がずれるだけでなくデータ構造が異なる。Rb-Sr図では、両遺跡の土師器の主体が重なって布置され、Rb値の散布が広い森ノ上Bに中野内が包括されるが、中野内はRb値が相対的に大きい部分(0.4<Rb)にまとまり、両遺跡で重心が異なる。Fe、Ti値も、重なりつつも重心にずれがある。以上から、近接する両遺跡は土師器







第76図 K-Ca、Rb-Sr分布図



第77図 その他の分布図

の化学特性と大枠での類似性もあるが、差異もあるといえる。ただし、両遺跡間で試料の中心時期にずれがあることに注意が必要である。なお、両遺跡で補完するような盛行期のずれから、調査者は中野内から森ノ上Bに移動していた時期があった可能性を考えている(後述)。

森ノ上Bの土師器でKないしCaが外れ値をとる0359、0367については、0359はCa値が大きく、Sr、Feも重心からずれるが、Ca以外は本遺跡土師器の変異幅を超えない。また各図で中野内の土師器とある程度似た特性も示す。泥質岩が顕著に多いが砂礫構成は他と同様で、換言すれば中野内と森ノ上Bを包括する小範囲の在地的土師器の化学特性を推察する手掛りとなりうる。一方0367は泥質岩の量が少なく、各元素の分析値は森ノ上Aの縄文早期土器のCa値の高い集団とある程度類似した挙動をとる。以上2点は泥質岩の量が両極端であるが、泥質岩砂礫0342やそれを含む粘質土0343の値とも隔たり、単に泥質岩の効果とはいえない。総合的に判断して、この2点は広い意味で在地製作とみなせよう。

他の遺跡の土師器は古墳中期で胎土に泥質岩を含む。カラ石の元の3点は全図でよく集中し、中野内と森ノ上Bの主体の土師器とも大局的に類似した特性を示すが、両遺跡の一方と一致するものではない。野地久保島は1点のみだが、中野内、森ノ上Bの主体の土師器の重心とも大きくずれる。しかし、両遺跡の主体領域を外れる試料の範囲には概ね収まる。以上の周辺遺跡試料を含む範囲は本地域の土師器の化学特性を概ね示すといえよう。

都城市平峰から抽出された試料は以上の領域に入るだけでなく、中野内の主体となる領域に常に布置されている。中野内と同じ製作地のものが遠く移動したか、同一の化学特性を示す別素材が使用されたかのいずれかであろう。もし、宮崎県最北部の本地域で製作されたものであれば、県最南部まで移動したことを実証する貴重な例となる。なお、類似した化学特性を示す胎土や素材が県内に分布しないか、今後計画的な調査研究が望まれる。

#### 外来系土師器(布留式)

森ノ上Bの布留式甕は、3点とも泥質岩由来の砂礫

が見られず無色鉱物が目立つ。在地様式とは胎土が明らかに異質で、内面ヘラケズリを施す薄い器壁など技法も異なる。3点は全元素で相互に類似するが、特に0351と0371は全く同じ挙動で、同一個体の可能性が高い。3点はいずれの元素でも在地様式の範囲かそのごく縁辺部に位置し、大きく外れる元素はないため積極的に搬入品とはいえない。3点が本来2個体ならば、個体間で同質の素材が使用されたとみるべきであり、仮に搬入品としても同一産地である蓋然性が高い。胎土中に泥質岩を含まず本地域外からの搬入の可能性もあるが、素材粘土の特定ができておらず、在地の胎土に泥質岩等が必ず含まれるとも断定できないため、本地域内での製作の可能性は捨てきれない。もし在地製作ならば、これらの素材は在地様式と異なる地点・層で採取されたか胎土の調整が異なることになる。本地域内の粘土分布を今後追求する必要がある。

#### 弥生土器

中野内の弥生土器7点については、0304が弥生後期であるほか、中期前葉までに収まるもの0312~0315から中期後葉0298までの時期差がある。0304と0313はK値が小さくCa値が大きい。両試料はRb値も小さく、在地の土師器と多少とも異質な特徴をもつが、特に0313はSr値も顕著に大きく、土師器の集団とは明確に異なる。ただし両試料で他の元素は土師器の集団と異ならない。0303はCa値が大きめであるが、他の元素はやはり土師器の集団と同程度である。0303と0313はK-Ca、Rb-Sr以外の図でも森ノ上Aの縄文早期土器の布置と重なり、それらとある程度類似した挙動をとるため、必ずしも地域外からの搬入とはいえない。両試料とも泥質岩を含む点はそれを支持する。その他の弥生土器は中野内や森ノ上Bの土師器と重なって布置され、総合的にみて在地的化学特性といえる。ただし、中野内の土師器の重心とはややずれており、素材採取地点・層や素材の調整の差を示すものであろう。結果として、他地域からの搬入と積極的にいえるものはない。

野地久保島の弥生土器0373は、近接する中野内の土師器や弥生土器とほぼ同じところに布置され、それらと類似した特性をもつといえる。



### 縄文土器（早期土器）

森ノ上Aの縄文早期土器は型式学的に変異が大きい。K-Ca図では概ね逆相関を示しつつ幅広く布置され、部分的に土師器の布置とも重なる。Rb-Sr図でも同様の形で、概ね $1.0 < Sr$ では $0.3 < Rb < 0.5$ で、Sr値に関係なくRb値がほぼ一定となる。やはり一部（Sr値が小さい）は土師器と重心は異なるが重なる。Fe値は比較的小さいものが大半で、土師器や弥生土器等との差はあるがFe値が大きく、重なるものもある。また、Ti-Ca、Na-Ca図では土師器や弥生土器の全体の分布範囲をトレースするように広がり、大局的にそれらと類似する。仔細にみれば、K、Rb値が大きい0329、0330、0338・0339（この2試料は同一個体）は、Ca、Srその他の値でも比較的良好とまり各元素が類似した挙動を示し、化学特性が類似しているといえる。これらはどの元素も土師器の主体的領域を外れず、土師器とほぼ同じ素材の使用を示唆する。特性が類似する素材が離れた時期に使用されたことになり、素材は近隣で採取可能である公算が高い。また、土師器や弥生土器等の全体的な分布範囲をトレースするように広がる、Ca、Sr値が大きい集団は、①数が少なく、②他の時期の土器にも類似した化学特性を示すものがあり、③胎土中に泥質岩を含む。総合すれば、本地域内にこうした特性を示す素材が存在し、それが用いられたとみるのが最も蓋然性が高い。これら縄文早期土器と土師器・弥生土器の全体としての布置は、広い意味で本地域の化学特性を示すといえよう。なお、以上は早期土器の貴重な分析例となった。

0329は外面に山形押型文、内面に原体条痕をもつ口縁部である。0330は山形押型文をもつ風化した小片だが、両者はピッチが類似し、同一原体の可能性が考えられた。3Dレーザースキャナで計測しマッチングを試みたところ、小片のため完全には一致しなかったが、ピッチ・深さ等が非常に類似し同一原体の可能性が濃厚と判断した。分析値からは両者の胎土はかなり類似しており、同一個体か、別個体でもほぼ同時に素材調整・製作された（同一人物の作品）という可能性が考えられた。その後、調査者により同一個体と確認され、押型文土器の同一個体内の変異幅を知る上で貴重な例となった。

### 砂礫・粘質土

森ノ上Aの泥質岩を主体とする砂礫0342と泥質岩砂礫を含む粘質土0343は、各図で土師器の主体となる胎土集団の領域内か領域の縁辺に布置される。調査者により土器素材の可能性が疑われたこの粘質土は、土師器の集団に近く、特に土師器に近い特性をもつ。分析値は森ノ上Bで主体となる土師器よりも中野内のそれと類似した挙動を示し、森ノ上Aの縄文早期土器とは異なる。よって土師器の素材はこの粘質土と概ね類似した化学特性をもつといえるが、そのまま使用したとは考えにくく、何らかの調整が行われたか、この粘質土に類似したものは多少組成を異にしながら地域内に分布していると考えられ、そうした素材の使用が考えられる。いずれにせよ在地製作を支持するデータといえる。

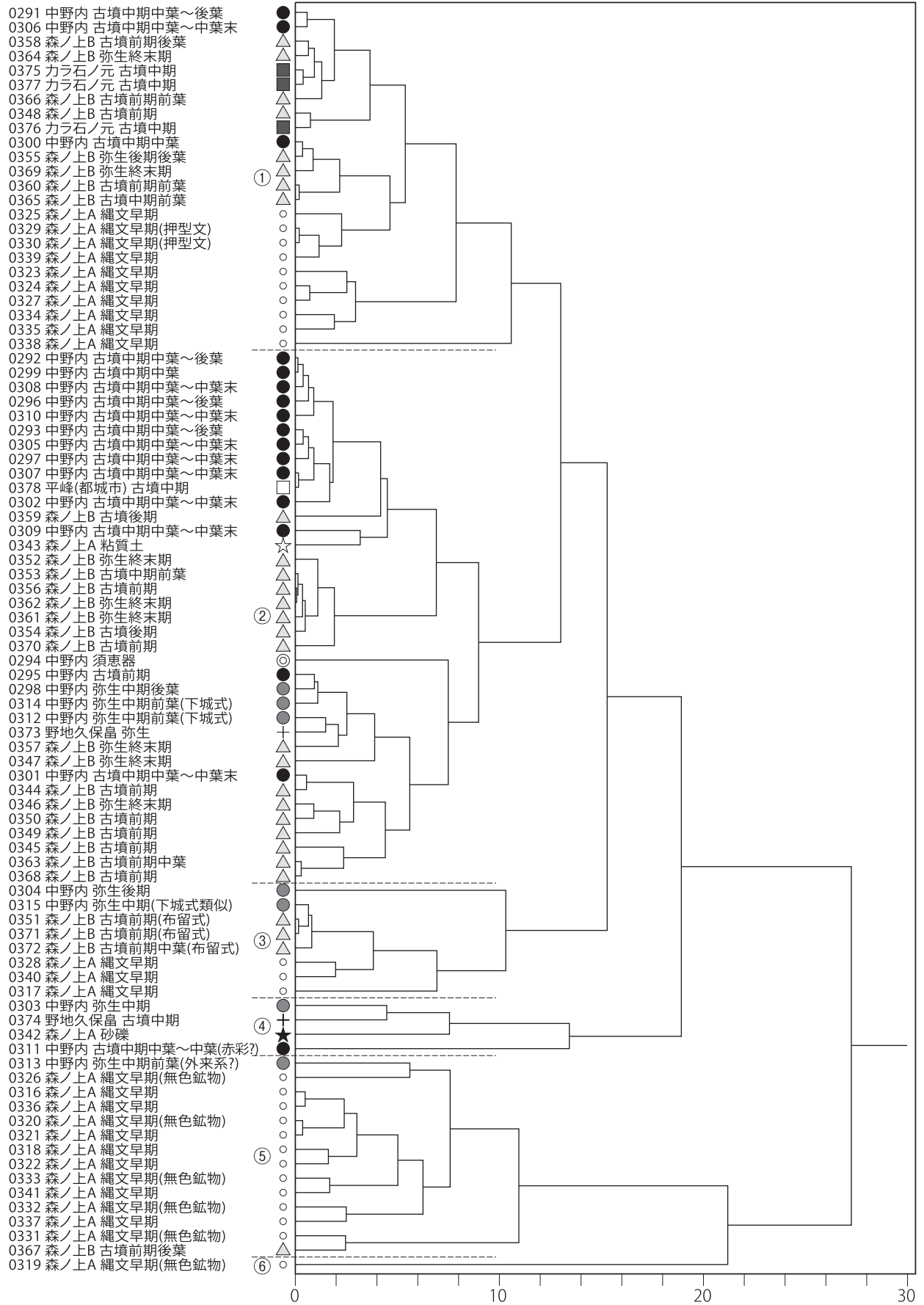
### 須恵器（第31表）

中野内の須恵器0294はCa値が極めて小さくSr値も小さい特徴をもつ。これは和泉陶邑に近い傾向で、K-Ca、Rb-Sr図でも陶邑領域とみて差し支えない。全試料のうちCa、Sr、Ti、Na値がほぼ極小で特異だが、本地域の試料はCa、Sr値が低いなどの特性があり類似しているともいえるため、本地域に未発見の窯があればそこで製作された可能性も一応考えられる。今のところ古墳時代の須恵器窯跡は、県内、大隅・薩摩、豊後でも未発見で、九州東半では豊前（福岡県東部～大分県北部）にあるにすぎず、豊前の居屋敷窯跡や伊藤田窯跡群と比較しても本試料は異なり、陶邑産である可能性が最も高い<sup>注2)</sup>。

### 4-2. クラスタ分析（第78図）

各元素の標準化値を用いて補助的にクラスタ分析（標準化ユークリッド距離、群平均法）を行った。デンドログラム（樹状図）は6つのクラスタ（①～⑦）が形成されたが、2大別（I群：①～④、II群：⑤・⑥）とみることもできる。

①は土師器（中野内と森ノ上B（弥生終末を含む）の一部、カラ石の元）、縄文早期土器の一部が含まれている。これらは、K値が大きく（ $0.5 < K$ ）、Ca値が比較的小さい（ $Ca < 0.3$ ）こと、Sr値が大きい（ $0.6 < Sr$ ）ことなどが共通する。



第78図 クラスター分析結果

②は最多の試料からなるが縄文早期土器を全く含まない。特に中野内の土師器の多数が本クラスターに含まれサブクラスターを形成することは試料相互の類似性の高さを示すが、そこに都城市平峰の土師器が含まれることは注目される。また多少の重なりはあるが、サブクラスターで森ノ上Bと中野内の土師器が区別される傾向がある。本クラスターには弥生土器（中野内の一部、野地久保島）も含まれる。本クラスターは弥生～古墳時代にまたがり最大であることから在地的典型といえよう。粘質土も本クラスターに含まれることはそれを支持する。なお、弥生中期後葉の大甕0298は山ノ口式やその周辺様式にみられるが、本試料は2個の下城式と類似度が高く胎土に泥質岩を含むため地域内製作と考えてよい。また、須恵器は類似度の高いサブクラスターを構成せず単独である。

③は8試料（森ノ上Aの縄文早期土器の一部、中野内の弥生土器の一部、森ノ上Bの外来系土師器（布留式））から構成される。在地系土師器は皆無で、それらと一定の差があることを示す。同一個体と推定した0351と0371の類似度はやはり非常に高い。

④は4試料からなり、Mg値が大きい特徴があるが（ $2.0 < \text{Mg}$ ）、試料相互の類似度は高くない。泥質岩主体の砂礫も本クラスターに含まれる。

⑤は縄文早期土器が主体で、そのうち無色鉱物を含むものは全て本クラスターに含まれる。本クラスターはCa、Rb値が大きい（ $0.45 < \text{Ca}$ 、 $1.0 < \text{Rb}$ ）ほか、Ti値も大きい（ $4.0 < \text{Ti}$ ）。早期土器の約半数は本クラスター、残り半数はI群側の①と③にある。また、外来系かとされた弥生土器0313と森ノ上Bの土師器0367が含まれる。以上いずれも泥質岩由来の砂礫を含み、広い意味で在地的胎土といえよう。

⑥は森ノ上Aの縄文早期土器0319の1試料からなる。これはCa、Naが最大値、Tiが最小値をとる。極端な値をとるが泥質岩のほか無色鉱物を多く含んでおり、やはり無色鉱物を含む個体が多く縄文早期土器を主体とする⑤と結合している。

前述のように2大別で捉えれば、Ca値が約0.45、Sr値が約0.8を境としてそれより小さいものがI群（①～④）、大きいものがII群（⑤・⑥）に分類されているようである。以上のクラスター分析の結果は、分布

図の視察と矛盾がなく調和的である。

## 5. 総合的考察

土師器や弥生土器の分析値は概ね縄文早期土器の変異を大きく外れず、それに収まる。時期を超えたこうした共通性から、全体として本地域の変異幅をカバーすると一応考えてよからう。大部分の胎土中の砂礫の共通性もそれを支持する。縄文早期土器は遠隔地からの搬入を明確に示すものはなく、黒曜石等の石器素材とはあり方が異なるといえる。

試料の多寡や時期的偏りはあるが各遺跡の土師器は重なりながらも、ある固有の化学特性を示す。数百m圏内にある中野内、野地久保島、森ノ上Bの3遺跡では、中野内の弥生中期土器と古墳前期土器（1点のみ）は特性が類似するだけでなく、森ノ上Bの弥生終末期～古墳前期土器とも類似性がある。両遺跡は盛期がずれ、調査者により前者から後者への集落移動の可能性も想定されているが、共通する特性をもつ素材か、引き続きほぼ共通の素材が使用された可能性がある。このことは、仮に製作が集落単位であれば両遺跡間での製作伝統の継承を意味するかもしれない。なお、野地久保島の弥生土器（1点のみ）は、これらと類似度が高い。森ノ上Bは古墳前期～古墳中期前葉が盛期と考えられ、古墳中期中葉頃から再び中野内が盛期となる。この時期の中野内の土師器は以前と成分が多少変化し区別可能で、胎土調整だけでなく素材の採取地点や層位が異なると考えられる。閑散期を挟んで中野内の土器に素材の差が生じたことになり、集落単位での製作であれば別集団の移住も考えられる。ただし、既存の場所での資源枯渇や、発色等を意図した素材選択（中野内の土師器はFe値が比較的高い）ならば同一集団と考えても不合理ではない。

弥生土器は、異系統様式であっても在地製作の場合もあり（中園ほか 2008）、県外の九州各地の分析では少なくとも中期までは遺跡・遺跡群単位でのドメスティックな生産・消費が常態と推定される（中園 2004）。土師器の生産・流通システムは、その解明を経なければ中野内における胎土の時期的変化の評価は困難であり、さらなるデータの蓄積が必要である。ただし、近接する遺跡間、同一遺跡の時期間でのデータが得られ

たことは貴重である。

森ノ上Bの外来系土師器（布留式）は在地系土師器と胎土に差があり搬入の可能性もあるが、本地域内製作の可能性を捨てきれない。ただし、素材採取地か調整が在地系と異なることは明らかで、仮に地域内製作でも特別な素材選択・調整がなされたか地域内でも砂礫組成の異なる別集落で製作されたとみられる。一方、安国寺式など弥生終末期様式の前古墳時代への継続はつとに知られており、終末期と古墳前期とに截然と分けにくい。分析結果も古墳前期の土師器と非常に類似し、両者は前後関係の近い関係か同時期の在地製作であることを示唆する。これは該期の本地域の土器様式の実相の理解に資する結果である。

これらの遺跡から3 km余り離れたカラ石の元の古墳中期の土師器は、森ノ上Bや中野内の土師器で主体となるクラスター②とは異なり、それに類似しつつもKやSrが大きな値をとるクラスター①に含まれる。①には各遺跡が含まれ、それらと類似性が高く、この状況からは土師器の一定地域内での流通の可能性も考えられるが、地質的背景として白亜系・古第三系の堆積岩類の付加コンプレックスが広がっており（小川内1984；ほか）、複雑な地質構造をみせつつも広い共通性がある。よって、別個に製作されても類似した化学特性を示す可能性もある。粘土露頭など素材の分析が今後の課題である。

他地域からの搬入を明らかに示す土器は各時期とも存在しなかったことは、ほとんどの胎土中に泥質岩に由来する砂礫が含まれていることと調和する。したがって、遺跡間の化学特性の微差は素材の採取地・層や調整によると考えられる。一方、都城市平峰から抽出された土師器は中野内のものと非常に近く、相互判別は不可能といえる。都城市北方には北浦地区周辺と類似した地質の分布もみられ、広く胎土分析や土器素材の調査を進める必要があるが、本試料は中野内と同じ産地か（そうであれば搬入品といえる）、それと極めて近い特性をもつ地域で製作された可能性が指摘できる。

## 6. おわりに

九州東半部では一部を除き胎土分析（特に低火度焼

成土器）が進んでいないが、ここで北浦地区周辺における胎土の化学特性を把握できたことは意義深い。以上幾つかの新知見や解釈の可能性が得られたが、広域にわたる分析を実施していけば各時期の生産・流通システムの実態やその他の考古学的考察に資するデータが得られていくはずである。したがって、計画的に土器やその素材の分析を進めていく必要があり、大方のご理解を頂きたい。

## 付記 赤彩のある土師器について

表面に赤彩があることが疑われた中野内の土師器0311について、蛍光X線分析による定性分析を行った。試料を表面から採取し測定するとともに、胎土のペレットについても同条件で測定したところ、胎土よりも顕著にFeの強度が高く、Hg、S等は検出されなかった。したがって、ベンガラの可能性が大であろう。

## 謝辞

分析の機会を与えて頂いた宮崎県埋蔵文化財センター及び古田陽、飯田博之、淵ノ上隆介の諸氏に感謝いたします。鹿児島国際大学客員教授の三辻利一先生にご教示をいただき、分析にあたって大学院生・学部生の協力を得た。深く感謝いたします。本稿の一部に平成21年度科学研究費補助金 基盤研究（B）（課題番号：21320150）による成果を含む。

## 注

- ①分析値の表が見やすい、②二次元グラフ化にあたり視覚的に直截に把握可能（認知的負荷の軽減、記憶・想起の容易化）、③地域的な化学特性の把握に有効な微量元素を強調、④分析単位ごとの僅かな変動（実際には問題ない範囲だが）の除去、⑤分析値の個々の装置への依存性の減少、というメリットがある。
- 三辻利一氏の判別分析では、陶器とのマハラノビスのD<sup>2</sup>値が比較された各産地中で最も小さかった。

## 文献

- 小川内良人・岩松暉・田邊暁子（1984）. 宮崎県延岡市北東部の四万十累層群の層序および地質構造. 『鹿児島大学理学部紀要（地学・生物学）』17:67-88.
- 中園聡（2004）. 『九州弥生文化の特質』, 九州大学出版会.
- 中園聡・松本直子・向井妙・別所秀高（2008）. 大阪府山賀遺跡出土土器および関連資料の胎土分析. 『大阪文化財研究』, 33:30-42.
- 三辻利一（1991）. 初期須恵器の産地推定法. 『X線分析の進歩』, 23:205-224.
- 三辻利一（1994）. 蛍光X線分析法による古代土器の産地推定法の開発. 『理学電気ジャーナル』, 25(2):32-42.

## 第七章 総括

### 第1節 出土遺物から見た北浦町の旧石器時代～縄文時代早期

本遺跡B区の報告書を前回、「森ノ上遺跡（弥生・古墳時代編）」として刊行している。今回、A区の報告書を「森ノ上遺跡」として刊行する。

本調査区で中心となった最もボリュームある縄文時代早期の遺物包含層は、二次K-Ah直下のIV層の褐色土中であった。土質は、粘性が強く小砂利混じりという、一見すると遺物を含むようには思えなかったため、縄文土器が出土した時は大変驚かされた。また、堅穴建物跡は確認できなかったが、同時期と思われる炉穴や多数の集石遺構もIV層より検出された。このIV層が、本遺跡の主要である文化層であると推定し、北浦町の縄文時代早期を中心に、本遺跡の総括としたい。

#### 1-1. 旧石器時代について

北浦町より南西に位置する五ヶ瀬川流域で、近年、発掘調査が行われており、舞野町の赤木遺跡第8地点（第一次調査）や小川町の山田遺跡、北方町の黒仁田遺跡等で多数、旧石器は確認されている。ところが、北に隣接する大分県佐伯市域では、ほとんど旧石器は確認できていない。この北浦町も、これまで旧石器時代資料は確認されてはいなかったが、前回、報告した近隣の中野内遺跡と海舞寺遺跡において、原位置遊離の状態ながら初めて旧石器が少量確認された。本調査区でも、縄文時代早期層のIV層に混在して、黒色系・白色系の流紋岩製のナイフ形石器やスクレイパー等を含む旧石器が総点数67点、総重量6,641g出土している。これは、中野内遺跡と海舞寺遺跡を上回る量である。この石材は五ヶ瀬川上流域からの搬入の可能性が高く、祖母・傾山系の流紋岩であろう。また、ナイフ形石器(1)は、ナイフ形石器文化終末期の基部加工ナイフ形石器(片島型)であり、旧石器時代でも比較的新しいものである。

今回の旧石器資料は、北浦町の旧石器空域期を確定的に埋めるとともに、県内最北端の旧石器文化圏としての資料となるだろう。

#### 1-2. 縄文時代早期について

##### ・近隣遺跡やこれまでの調査より

北浦町内では、本遺跡より東方の昌雄寺付近で後・晩期の土器片、市振地区で縄文土器がそれぞれ発見されている。また、古江字野地で推定後期の半磨製石斧・石錘・石匙、古江字鳴川引地で縄文時代の石鏃等、野地久保畠遺跡から中野内遺跡の間の丘陵斜面で、縄文時代の可能性のある敲石を採集している。また、今回の野地久保畠遺跡の中でも、縄文時代晩期の深鉢や縄文時代の可能性のある打製石鏃が報告されている。

近隣の延岡市北方町の笠下遺跡では集石遺構163基をはじめ、押型文土器、撚糸文土器、前平式系土器、吉田式系土器が出土している。また、山田遺跡では、集石遺構をはじめ、貝殻条痕文系土器、押型文土器等が出土している。

##### ・土器

出土した土器は、総重量約158kg、総点数8,780点で、大変バラエティーに富んでおり、その中で195点を図化した。出土した土器のほとんどが小片で風化の著しいものが多く、また、口縁部から底部までの資料が揃わず、全体像の掴みにくく不明な点も多い。

土器の重量別分類割合グラフ(第72図)から約60%程度の無文土器を除くと、貝殻文系土器の割合が全体の約20%程度で、撚糸文を含めた押型文系土器の割合は全体の約5%程度である。

貝殻文系の代表的なものとして、南九州に多く分布する貝殻文円筒形土器が想定できる。中でもIB類は直立または多少外反する口縁部で口縁端部に貝殻腹縁刺突文や篋状刺突文を巡らせ、胴部には粗い条痕文を施しているものもある。器形の面では多少異なるものの、文様構成は前平式土器に類似しており、その系譜上にあるものと思われる。ID類は器壁が薄く、直立気味の口縁部で外面全体には縦位の貝殻腹縁刺突文を施している。また、楔形凸帯文を貼付することから知覧式土器に類すると考えられる。新東氏の編年(新東1989)と照合するとIB類(前平式)→ID類(知覧式)という編年に沿う。

I C類は器形や文様から概ね円筒形条痕文土器であり、木崎氏の設定（木崎 1998）する中原式土器（Ⅱ～Ⅲ式）に類すると考えられる。この中原式土器は、主に中九州西部に多く分布している。本調査区からは出土していないが、中九州西部では中原Ⅳ式と押型文土器（早水台式）の相伴関係が明らかになっている。

押型文系土器の中でもⅡA類・ⅡB類である楕円・山形押型文土器については、小片で風化が著しく決めに欠けるが、96は直線的な口縁部は大きく開き、外面は、横位施文の山形文で内面は原体条痕と呼ばれる沈線状の文様が見られるため、早水台式土器に類するものと考えられる。他の押型文の土器片についても、器形や文様等から稲荷山式もしくは早水台式に類する比較的、古手の押型文土器の可能性が高い。

Ⅳ類の無文土器は、全体出土重量の61%を占める。厚手の胴部破片が多く、無文土器の中に無文土器の混入の可能性は否定できない。しかし、器形や胎土の状況から無文土器の割合が高いこと事実である。隣接する同時期の遺跡でもある佐伯市の森ノ木遺跡や神ノ原遺跡においても、出土土器の構成が類似しており、同じく無文土器の出土割合が高い。

瘤付き無文土器も本調査区で突帯状のものを含めて11点出土している。東部九州から北部九州にかけて多いことが分かっている（柳田 2004）。なお、大分県の調査では、押型文土器の稲荷山式土器の時期であることも明らかになっている（橋 1982）。

今回の調査では、縄文時代早期前葉から前葉末にかけて、北部九州、中九州、南九州などの各地域を主体とする土器が出土していることは確定的である。しかし、垂直分布・平面分布の両面においても、これらの出土した土器の相伴関係を明確にすることは難しい。前述したように前平式土器・知覧式土器・中原式土器は低所部分の範囲に、楕円・山形押型文土器は、高所部分の範囲に、大まかに分布している傾向がある。これらの分布上の偏りから、集石遺構の分類や分布状況も含めて、同時期の集団差を示すものなのか、時期差を示すものなのか、未確定要素が多く、断定はできないが興味深い結果となった。

#### ・石器

出土した石器は、総重量約416kg、総点数約2,638点

で、その中の319点を図化した。石器には打製石鏃・尖頭器等の狩猟具や、石斧・磨石・敲石・台石等の加工具・調理具等がある。特異なものとしては異形石鏃・トトロ石器・石針・線刻のある礫等があり、一般的な遺跡よりも豊かな石器組成となっている。

石材利用について、大まかに傾向を把握するところでは、後述する配石や内部礫とも共通するが、大半は遺跡近傍で豊富に採取可能な砂岩や千枚岩等である。砂岩においては、粗質な砂岩は集石遺構の内部礫に、きめの細かい良質な砂岩は石器とし、区別している。石器となり得る良質な砂岩は、出土した石器の約78%（324kg）で圧倒的な割合を占める。この石材では台石をはじめ、敲石・磨石、粗製剥片石器、礫器等に多用されている。このような出土状況は近隣の縄文時代早期の遺跡として、佐伯市の神ノ原遺跡の石器組成と近似している。チャートを主体とする石鏃等の小型剥片石器類、砂岩を素材とする大型の剥片石器、砂岩礫を使った豊富な礫器類等と共通する点が多い。器種的に見ても、粗製剥片石器や礫器の出土が多い点も共通する。同市の森の木遺跡も同傾向がある。

千枚岩製石器については、山田遺跡にも少量出土しているが、石器に不向きな千枚岩を敲石・磨石、または台石として利用するところは、北浦地域ならではの本遺跡の特徴であろう。調査後半になって、千枚岩製の扁平な台石537を集石遺構の配石の中から確認した。調査終了後、敲石・磨石の多量の数との相対も考慮すると、調査前半の中で、千枚岩製の扁平な台石が多数存在していた可能性も高い。他にも、敲石・磨石等として使用した痕跡のあるものを内部礫として確認されている。

他の石材としては、五ヶ瀬川上流域からの搬入可能性の高い花崗斑岩類やホルンフェルス類、チャート類、頁岩類等である。また、上記のものに付け加え少量の黒曜石類（大分県姫島産、佐賀県腰岳産、長崎県淀姫産）など、西九州から東北九州にわたる遠隔地石材の搬入が確認される。

以上のことより本遺跡における出土遺物は、大分県域をはじめ、九州各方面からの搬入やその影響が確認され、他地域との交流を窺わせるものである。また、海に近い本調査区で、漁具等の出土がなかった点や打

製石鎌・尖頭器等の狩猟具、石斧・磨石・敲石・台石等の加工具・調理具等が出土した点から、近隣の中野内遺跡同様に、漁撈でなく山の恵みを意識した生業を想像させる。(山田)

## 第2節 森ノ上遺跡における集石遺構の考察

県内全体では、「宮崎県の集石遺構と炉穴」(日高・柳田 2003)によると、集石遺構は179遺跡2886基、炉穴は18遺跡554基確認されている。集石遺構については、そのうちの173遺跡は早期であることが分かっている。九州では鹿児島県を上回る圧倒的な数である。県内の分布は、開発に伴う調査等の状況もあるが、現状では大淀川下流域から一ツ瀬・小丸川流域の段丘地形の広がる宮崎平野に分布が集中している。県北の五ヶ瀬川流域では、それと比較すると少ないが、特に延岡市北方町の笠下遺跡では163基の多数の集石遺構が確認されており、最近では赤木遺跡第8地点(第一次調査)では58基、山田遺跡では44基確認されている。北浦町内では、これまで例がなかったが、前回の調査で、中野内遺跡では縄文時代早期の集石遺構が1基確認されたことや、海舞寺遺跡では赤化礫が散在し、付近に集石遺構等の存在が可能性として述べられている。

隣接する大分県では、「大分県の集石遺構と炉穴」(今田 2003)によると、集石遺構が確認された遺跡を60遺跡挙げている。そのほとんどが早期の所産であり、分布は内陸部・沿岸部を問わず、県内全域に確認されている。また、大分県佐伯市において、神ノ原遺跡では12基、佐伯門前遺跡では33基の集石遺構が検出されている。なお、森の木遺跡では、縄文時代早期・前期の円形竪穴建物跡26軒、集石遺構55基や炉穴18基が検出されている。

今回、本遺跡で調査対象となったのは2,950m<sup>2</sup>であり、そのうち遺物包含層が良好に残存していた1,400m<sup>2</sup>の範囲で、最終的に168基の集石遺構が検出された。集石遺構168基については、崩壊された可能性のあるもの、切り合いのあるもの等、全て含んだ数であるが、笠下遺跡の数を上回る結果となった。

### ・特徴

本遺跡の集石遺構の形態は、掘り込みと配石があり、配石の石材は、ほとんどが千枚岩で、砂岩が少量

混じる。大きさは約30cm前後のものが多く、形は角がとれ、丸みを帯びた扁平なものが大部分を占める。また、掘り込み全体を覆うように配石を花卉状に充填している。均等な大きさと充填された千枚岩がまさに花びらのように見える。内部礫は、配石内部に同心円状に配置されており、その石材は、ほとんどが粗質な砂岩で、良質な砂岩や千枚岩が少量混じる(第71図)。この花卉状の配石の形態は、石材の種類は異なるものの笠下遺跡、山田遺跡、赤木遺跡第8地点(第一次調査)でも数的には少ないが同様に確認されている。

### ・全てに掘り込みと配石がある

集石遺構の全体数の中で、配石を伴い、掘り込みを有する集石遺構の割合が、山田遺跡では44基中30基、赤木遺跡第8地点(第一次調査)では58基中35基と半数以上を占める。笠下遺跡でも163基中73基と半数近くを占める。

本調査区の集石遺構の形態については、全てに掘り込みと配石があるものばかりである。これは、前述の通り、調査区の現状と調査方法に起因する。まず、調査区の現状が、全面に散礫により厚く多量に覆われていること、次に、掘り込み面が識別困難であったことである。そのため、集石遺構を認定する唯一の方法として、多量の散礫中から配石となる千枚岩の一部を円形状もしくは、それに近い形状で検出する方法であった。その結果、本調査区の集石遺構は、全て掘り込みのある、全て配石を伴うものだけの検出となった。

配石となる千枚岩が見られない散礫の厚い箇所については、掘り込みのない、もしくは配石の伴わない集石遺構を意識しつつ調査した。しかし、礫の密度や被熱による赤化等を観察したものの、集石遺構と認定できるものは確認されなかった。

### ・石材の供給

『宮崎県の天然記念物(地質鉱学)』によると、「延岡市北部から北浦町にかけて、古江衝上断層と延岡衝上断層の間に分布する北川層群は古第三期の四万十累層群上部相当層である。砂岩、砂岩泥岩互層、千枚岩を主体とする地層である。」と述べられている。また、図版にも掲載したように、本遺跡のVI層下は基盤を成す砂岩の礫層、そして千枚岩の岩盤であることが確認される。このことより、本調査区は、千枚岩や砂岩を

豊富に供給できる立地環境であることは間違いない。配石の形状を肉眼で観察して分かるように、転磨されたかのように角がとれ、丸みを帯びているものが多い。このことから、本遺跡の集石遺構の配石は、流れる水による影響を受けた可能性が高く、付近の河原等から持ち込んできた可能性が高い。内部礫の石材についても、千枚岩の岩盤上に基盤を成す砂岩の礫層が堆積しており、これを内部礫として利用し、千枚岩同様、付近の河原もしくは開析崖等から持ち込まれた可能性が高い。笠下遺跡や山田遺跡も近くに露頭で確認できる阿蘇容結凝灰岩等を配石として利用している。

千枚岩は、節理面があるため板状に割れ、扁平な礫として採取しやすい。この特質を生かし、千枚岩の扁平礫を配石として多用している。他遺跡でも近辺の石材を配石として利用しているケースがほとんどであるが、この千枚岩を配石として利用しているのは本調査区の大きな特色である。

縄文時代早期という長年の集積の結果であるが、散礫、内部礫の総重量約24 t、配石の総重量約6 t、合計約30 tもの石を付近から本調査区へ搬入し続けたことになるのだろう。

近隣の中野内遺跡で1基のみ検出した集石遺構も、皿状の浅い掘り込みがあることや、内部礫が同心円状に配置されていること、石材構成が砂岩と千枚岩であることなど、類似している点が多い。また、縄文時代早期前葉（9,400年前）という年代値結果より、本遺跡と同時期に存在した可能性が高い。しかし、掘り込み面に配石となる千枚岩が2点しか配置されておらず、しかも確定的な配石でないという点は、掘り込み面全面に千枚岩を敷き詰めた本遺跡との大きな違いがある。配石となる千枚岩の供給差なのか、意図的な形態差なのか不明である。

#### ・本遺跡における集石遺構の性格や変遷

最後に、当時の人々が縄文時代早期という長いスパンの中で、30 tもの石を搬入し続け、穴を掘り、壁に石を敷き詰め、集石遺構を調理施設として利用してきたことは事実である。これだけ高密度で多数の集石遺構を検出した本遺跡において、当時の人々が、この地を好み、どのように生活していたか、想像が膨らむばかりである。そこで、どのような性格をもった遺跡な

のか、以下を参考にすると、2通りに分けられる。①「住居跡は検出されておらず、施設構造の発達した集石遺構（構成礫が集中し、掘り込み部が確認できたうえに、底石あるいは壁石などの施設を伴い検出された集石遺構）は、居住地区から独立した場所にある恒常的な調理地区の可能性が考えられる。」②「住居跡は検出されておらず、施設構造の簡便な集石遺構（構成礫の集中にかかわらず、掘り込み部が確認できない集石遺構）は、季節的利用といった一過性の性格の強いキャンプ地的な位置づけの可能性もある。」（八木澤 2003）

これを参考にすれば、本遺跡は①に該当し、居住地区から独立した場所にある恒常的な調理地区ということになる。そうなれば、本遺跡の近辺に居住地区があったのか、さらなる推測が深まる場所である。実際、森ノ上遺跡B区からは縄文時代後期から弥生時代中期の可能性の建物跡1軒が検出されており、時期差はあるものの、何かしら関係があるのか、今後調査に期待したい。

集石遺構の変遷については、指標となる遺構内での出土遺物など明瞭に判断できるものがほとんど無く、また、層位的な前後関係も不明である。大分県日田郡天瀬町平草遺跡（栗田 1982）に見られるような時期によって集石遺構の形態が当てはまるか、本遺跡の集石遺構についても、分布と出土土器の関係を当てはめてみたが、確定的ではない。168基のうち果たして何基が縄文時代早期の中での同時期の所産であるかどうか判別する材料に欠けるが、地形や立地条件、集石遺構の周辺から出土した多量の土器や石器等から、集石遺構を営むのに適した環境であったことが窺われる。

#### ・最後に

北浦町における文献資料が少なく、前述した通り、時間的制約もあり、調査成果を十分に深化できなかった面も多々ある。しかし、今回の森ノ上遺跡の調査では、主に縄文時代早期に属する遺構や遺物が多数確認された。その結果、これまで調査報告の少なかった北浦町の各時代を知る上での重要な素材となるであろう。今後、類例が増せば更に詳しいことが判明し、今後の調査結果や資料活用に期待したい。（山田）



### 第3節 中世末～近世の野地

古江の中港川は昭和40年代の砂防事業によって西へ流れを変えている。そこで、これまで述べてきた「野地」の範囲とその周辺状況を示すため、明治20年頃と現在との比較を示した（第79図）。

現在の古江交差点は以前の中港川の河口付近であり、河口周辺をその名の通り「中湊(港)」と呼んでいた。一方、古江東端には古江川が現在も同じ位置を流れており、こちらの河口付近は「浜松原」と呼ぶ。浜松原と中港は隣接している。現在、地図上でこの古江交差点付近を「浜中」と表すのはこのためと思われる。

交差点より少し西に以前の橋の一部が今も残る。なぜか「野地川」と刻まれている。中港川のことを野地川と記した例はこれしかなく、地元での聞き取りでも詳細がわからないままである。

野地久保島遺跡での発掘調査を通して知りえた中世末から近世期における野地地区に関連する資料（神社等の建造物、石碑など）について記し、あらためて野地久保島遺跡の位置づけを考えてみたい。

#### 3-1. 野地に関連する資料(神社等の建造物、石碑など)

以下に記す神社等の建造物、石碑などの場所は番号を第79図に示している。

##### ①赤八幡（あかはちまん） 字野地久保島

東側の稲荷山の頂にあった。現在はそこにデイサービスセンターが建ち施設内に移設している。コンクリート製の小さな祠のみで、赤痢を鎮めるために祭られたという。

##### ②元宮神社 字鳴川引地

第IV章第1節参照。

##### ③錫杖 字鳴川引地

30年程前に元宮神社参道にあった木原朝日之進の墓を子孫が移動させた際に出土。木原氏の持ち物と思われる。現在は延岡市北浦町公民館に展示してある。当センター報告書第189集に写真等記載。

##### ④地藏堂 字鳴川引地

野地の地藏堂、地藏庵、野地成川地藏寺などの表記あり。元宮神社の鳥居の西隣の石段を登ると文字どおり地藏が祭られている。建物の基礎だけが残り瓦が散乱している。かつて御堂が建ち中は畳敷きであったこ

と、修験者らしき声が周囲に響いていたこと等の地元住民の話もある。これは『北浦村史』に記載のある「山伏修験院」関連の建物ではないかと考える。山伏修験院とは16C末から17C初めに昌雄寺の中興開基に関わった河野阿波守が「古江村の西方の窪地」に建てたとされるものである。

##### ⑤河野阿波守墓碑 字車地（くるまじ）

1918（大正7）年に河野氏の子孫が建てた。阿波守は1594（文禄3）年に死去し、その墓の場所を「本村小字野地」と碑文に記す。この墓碑は最初、本村の昌雄寺内に建てられたものであるが後に元来の墓の位置に移された。墓碑が建つ位置は1887（明治20）年頃の地籍図に墓地と示してある。

##### ⑥荒神（こうじん） 字車地

建物ではないが、石が祭られ、その後に大木が立つ。民家数軒がそれを守るように囲んでいる。元宮神社より古い年代との伝承がある程度で詳細はわからない。文献史料にも一切記述がない。

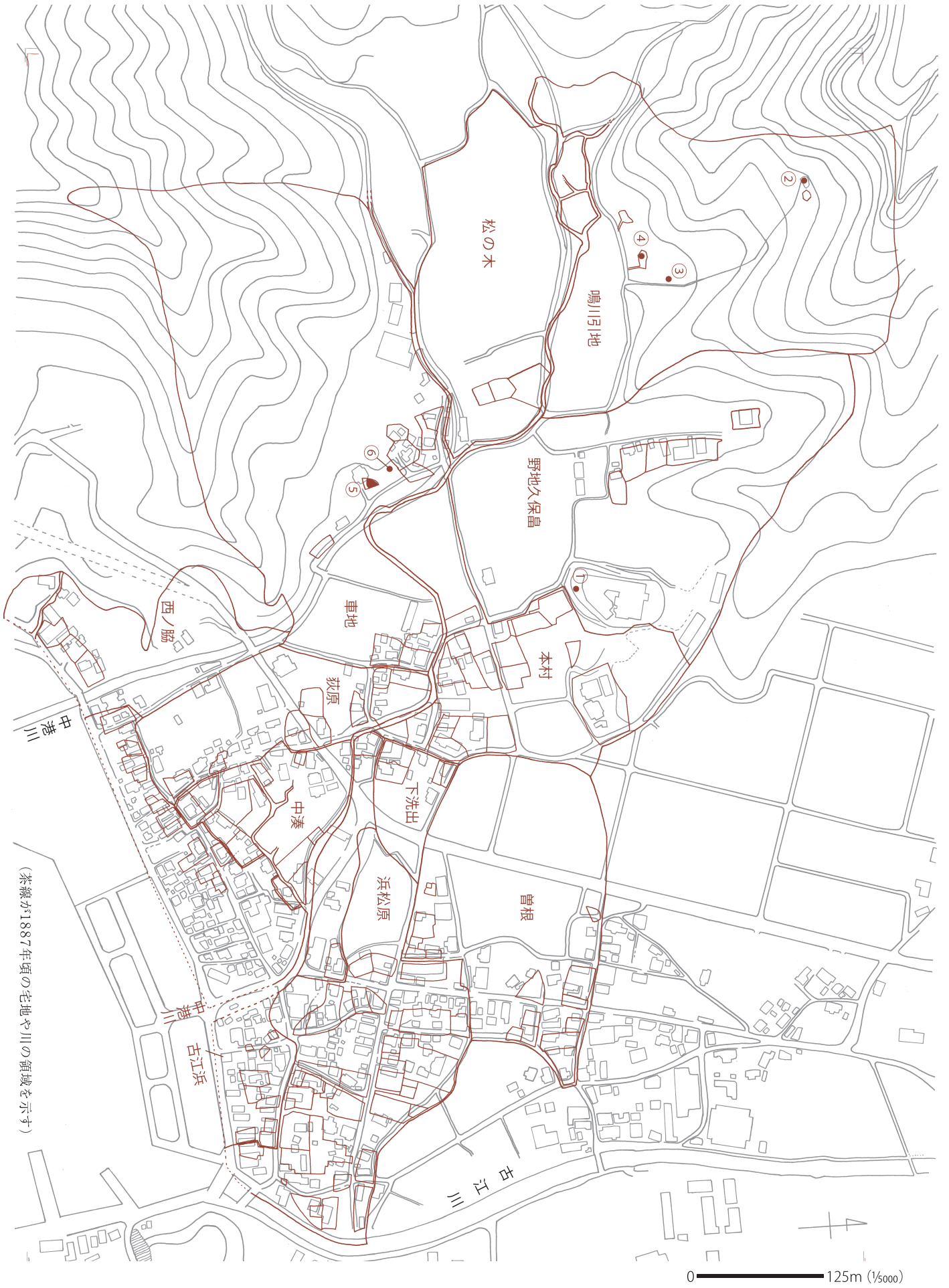
##### ⑦野地神社・三島神社 旧所在地不明

いずれも『宮崎県神社誌』（1988）では所在地が野地とあるが、1871（明治4）年に古江神社に合祀し現存していない。『延岡今山八幡神社社務所所蔵神社書上帳』の1868（慶応4）年の記載では、三島神社は名称が「三島大明神」、所在地が小嶋とある。しかし、小嶋の字名は明治以降の史料にはない。但し古江埠頭付近を「コジマノハナ」と呼んでいたこと、現在の埠頭は離島との間を埋め立てて建設されていることから、かつての「小嶋」は「浜」の一部になったと考えられる。「浜」は「古江浜」か、古江川下流の西側の「浜松原」と推測される。ちなみに浜松原には古くからの町並みが残っているが「見島」の姓が多い。

#### 3-2. 野地久保島遺跡の位置づけ

第IV章第1節で述べたように、野地久保島遺跡は元宮神社を造営した木原氏の屋敷があった場所とする伝承がある。しかし、今回の調査で木原氏と野地久保島遺跡の関連を明確にすることはできなかった。

ただし、ピット列1・2の放射性炭素年代測定結果を第IV章第5節・第VI章第1節で詳述したように、木原氏が野地に住んでいた期間（1563～1655年）に近い年



(茶線が1887年頃の宅地や川の領域を示す)

第79図 1887年頃と1995年の古江地区の比較

代値を得ている。

またピット列2のS121から出土した薩摩焼の蓋は形状からは17C第2四半期～後半のもので、これも木原氏の屋敷が存在したとされる期間に近い。

逆に、先述の3-1に記した現在確認できる野地地区関連の資料のうち、②元宮神社と③墓を除いて、木原氏との関連が高いものはなさそうである。よって、今回の調査結果だけをもって木原氏と野地久保島遺跡の関わりを完全に否定するものでもないだろう。

ともかく、木原氏が今村へ引越した後の17C後半を中心に、野地の開墾が進んだことは文献よりわかる。鳴川引地・久保島・松の木・車地・萩原・中湊とはほぼ一斉に古江浜まで開墾されている。中港川上流に位置する鳴川引地・松の木に比べ、中流から下流の久保島・車地・萩原・中湊の方が開墾面積は広い。遅くとも17C後半には野地に住む人々があり、集落といったものが形成されたと考えられる。

遺物の大半は18C後半～19C初め頃のものである。一般的な肥前産の磁器類だけでなく、備前産や堺・明石産の播鉢、天草の砥石、高島産の硯等も出土している。これら近世期の遺跡でごく一般的にみられる遺物が北浦町でも確認できた。つまり、北浦町のような人口密集地ではない農村・漁村部であっても日常生活品の全国的な流通販路内にあったことがわかる。

いかにして全国各地の産物が北浦町まで届けられたか詳細は不明だが、多くは船舶によってもたらされたものであろう。例えば、延岡藩の参勤交代の船団は延岡市の島浦島に必ず寄港している。豊後水道を通過する様々な船が古江湾を行き交ったことは間違いないであろう。近現代の陸上交通のイメージから見た「陸の孤島」であったわけではない。

また、これまでの宮崎県内の薩摩焼の出土例は薩摩藩領であった都城市と佐土原藩領であった新富町を中心に、これに隣接する宮崎市・西都市・高鍋町・川南町でみられた。中でも土瓶が多く、年代は近世後半期がよくみられる。野地久保島遺跡出土の薩摩焼堂平窯の蓋は17C後半以降のものである。

これまで延岡・日向での薩摩焼出土の例はない。どのようなルートで北浦町に薩摩焼が行き着いたのか。これまで薩摩焼出土の宮崎県最北地であった川南町ま

での流通経路と北浦町のそれとは区別すべきなのか。美々津や細島など港に至るまでの陸上ルートに注目すれば、川南町の北隣の都農町付近でも薩摩焼が出土する可能性があるのではないか。

最後に野地久保島遺跡で出土した宮崎県延岡市の丸山焼について概略を示す。

#### 丸山窯 (延岡市山下町 1830～1887年)

「蓬莱山焼」ともいう。京都の陶工田畑熊蔵とその長男政吉によって焼かれた。田圃土を使用。熊蔵は丹波亀山の生まれで初期は五条御室焼と称され、優雅な樂焼風のものがつくられた。後に需要の変化に応じ土灰釉、白釉、鉄釉等を用いて多種多様なものが生産された。

窯跡や延岡城跡の発掘調査を除けば丸山焼をはじめとする宮崎県延岡市で焼かれた陶磁器類の出土例はほとんどない。県北の地方窯については未だ不明な点が多いことから、今後の調査の貴重な資料となるだろう。

(黒木誠)

### 第4節. 胎土分析

今回、北浦町で調査した近隣する4遺跡の森ノ上遺跡、野地久保島遺跡、中野内遺跡、カラ石の元遺跡出土の土器・須恵器および土壌を鹿児島国際大学中園聡先生のご厚意により、胎土分析をしていただいた。以下、分析試料の時代もしくはその種別を遺跡毎に区分し表に示した。

試料種別	縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	土壌
遺跡名					
中野内遺跡			○	○	
森ノ上遺跡	○		○		○
野地久保島遺跡		○	○		
カラ石の元遺跡			○		

肉眼による観察では、4遺跡とも共通して、出土土器の胎土に砂礫の混入を確認しており、それが北浦町域在地産土器胎土の特色といえるのではないかと考えていた。また、森ノ上遺跡より採取した砂礫を含む粘質土が土器素材の可能性があるのでないかと思いい、分析をお願いした。

分析の結果、遺跡の所在する地域は泥質岩域であり、土器材料を現地調達していれば、砂礫が土器に混入していても何ら不自然ではないので、砂礫は意図的に製作者が混入した物ではなく、特色とまではいえないようである。それに伴い、調査担当者が期待していたような集団の移動や土器の流通に関しては、分析試料数も少なく、地域も限られることから胎土分析の面からは明確な解答は得られなかった。ただ、森ノ上遺跡採取の土壌は、素材の一部である可能性があり、土師器試料の在地製作を指示するデータといえる、との御指南を頂いた。

これらのことから、砂礫が混入するといった胎土の特性は、旧北浦町域といった広範囲の特性ではなく、この4遺跡が所在するきわめて狭い範囲の特色と考えるのが妥当であろう。

また、搬入品の可能性を考えていた森ノ上遺跡B区出土の布留系土器も、在地産の可能性があるという見解をいただいた。しかし明らかに胎土や技法は同時期出土の土器とは異なる点から、通常の在地土器とは造り分けの意識が製作者に働いていた、と推察できる。またオリジナルもしくは模倣品である布留系土器を目にする機会がなければ、製作することは出来なかったのではないだろうか。このことから何らかの土器の流通経路があったものとも考えられる。

今後、北浦町域及び県内出土土器の胎土分析事例が増え、データが蓄積していくことによって、比較・検討も可能になっていくであろう。(柳田)

#### 主な参考文献

北浦町1994『北浦町史』通史編／史料編第一巻 町内文書／史料編第二巻 町内戦時史料  
 北浦町教育委員会1997『中野内遺跡』  
 北浦町教育委員会1968『北浦村史』第一輯／第二輯  
 延岡市教育委員会1986『延岡市古代史料収蔵目録』／2001『延岡市の文化財』  
 平部崎南1884『日向地誌』(1978年に青潮社より印字刊行)  
 宮崎県1989『宮崎県史』考古編1／1993『宮崎県史』考古編2／1996『土地分類基本調査』蒲江  
 宮崎県教育委員会1987『林遺跡』宮崎県文化財調査報告書第30集／1992『平成3年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書』／1998・1999『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ・Ⅱ』  
 宮崎県総合博物館1972『研究資料 第三集 山村調査報告書-北浦村三川内の歴史と民俗』  
 藤木聡2010『弥生時代日向における片刃石斧の変遷とその背景(予察)』『宮崎考古』第22号  
 石川恒太郎1968『宮崎県の考古学』

#### (全般)

宮崎県埋蔵文化財センター2010第189集『海舞寺遺跡 市之申遺跡 中野内遺跡 森ノ上遺跡(弥生・古墳時代編)カラ石の元遺跡』／2009第181集『黒仁田遺跡』／2008第176集『板平遺跡』／2009第182集『赤木遺跡第8地点(第一次調査)』／2009第185集『尾花A遺跡Ⅰ(旧石器時代～縄文時代編)』／2007第146集『山田遺跡』

／2003第71集『阿蘇原上遺跡』／2006第126集『唐木戸第4遺跡』／1999第14集『内屋敷遺跡』／2002第61集『別府原遺跡』／2002第52集『白々野第2遺跡・第3遺跡』／2008第173集『宮ノ東遺跡』  
 北方町教育委員会1990『笠下遺跡』  
 鹿児島県埋蔵文化財センター2000『上野原遺跡(第10地点)(第1分冊～第3分冊)』／2001『上野原遺跡(第10地点)(第4分冊～第10分冊)』／2002『上野原遺跡(第2～7地点)縄文時代早期編』  
 大分県教育委員会2000第109集『森の木遺跡』  
 大分県教育庁埋蔵文化財センター2005第3集『津久見門前遺跡 瀬戸遺跡 佐伯門前遺跡』  
 大分県佐伯市教育委員会2006『神ノ原遺跡発掘調査報告書』

#### (土器関連)

若永哲夫2006『南九州の押型土器』『宮崎考古』第20号  
 新東晃一1990『縄文早期土器の補修孔』『南九州縄文通信』No.3南九州縄文研究会  
 森畑光博1995『南九州縄文早期土器様式の変化について』『南九州縄文通信』No.9南九州縄文研究会  
 小林達雄・小川忠博1989『縄文土器大観』  
 小林達雄2008『総覧 縄文土器』『総覧 縄文土器』刊行委員会  
 熊本県教育委員会1996第158集『蒲生・上の原遺跡』  
 野津町教育委員会1984『新生遺跡・下藤遺跡』／1985『野津川流域の遺跡』  
 柳田祐三2004『五ヶ瀬川流域の考古資料(その2)-無文・コブ文・Tradition-』  
 『九州縄文時代早期研究ノート』第2号九州縄文時代早期研究会  
 金丸武司2007『宮崎県における縄文時代早期前葉の土器相』『九州における縄文時代前葉の土器相』九州縄文研究会  
 坂本嘉弘1998『東九州の押型土器研究の現状と課題』『九州の押型土器-論攷編-』九州縄文研究会  
 水ノ江和同1998『九州における押型土器の地域性』『九州の押型土器-論攷編-』九州縄文研究会  
 山下大輔2010『南九州押型土器編年-円筒形押型土器の位置づけをめぐる-』  
 『宮崎考古学会発表資料』

#### (石器関連)

利根川同人2003『利根川』24・25  
 財団法人愛知埋蔵文化財センター1993第33集『朝日遺跡Ⅳ』  
 竹岡俊樹2003『石器の見方』勉誠出版

#### (集石遺構関連)

八木澤一郎2003『鹿児島県上野原遺跡第10地点の集石遺構』『九州縄文時代の集石遺構と炉穴』九州縄文研究会・宮崎考古学会／2007『集石遺構とその機能-九州島の状況から-』『縄文時代の考古学5 なりわい-食料生産の技術-』同成社／1994『南九州の集石遺構』『南九州縄文通信』No.8  
 野嶋洋子2007『集石の民族誌』『縄文時代の考古学5 なりわい-食料生産の技術-』同成社  
 九州縄文研究会・宮崎考古学会2003『九州縄文時代の集石遺構と炉穴』  
 栗田勝弘『東九州における縄文早期集石炉の変遷』『平草遺跡』大分県天瀬町教育委員会1982  
 大分県天瀬町教育委員会1982『平草遺跡』

#### (陶磁器関連)

関明恵2009『堂平窯製品の経年変化について』『南の縄文・地域文化論考(下)』  
 大橋康二2004『世界をリードした磁器窯 肥前窯』シリーズ『遺跡を学ぶ』005  
 九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念  
 同2006『江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通 九州編』第16回九州近世陶磁学会  
 平凡社1988『古伊万里』別冊太陽 日本のごころ No.63  
 東京都建設局新宿区内藤町遺跡調査会1992『内藤町遺跡』第Ⅱ分冊〈遺物編〉  
 江戸遺跡研究会2001『図説 江戸考古学研究辞典』  
 長崎県波佐見町1996『波佐見青磁展・くらわんか展』世界・炎の博覧会  
 宮崎県立美術館2004『宮崎の陶磁器 その源泉をたどって』  
 延岡市教育委員会2001『延岡市の文化財』

# 圖 版



調査区全景（北から）



調査区全景（南西から）

野地久保畠遺跡遺構（1）



調査区西側（北東から）



調査区東側（北東から）

野地久保畠遺跡遺構（2）



調査区東側ビット群と散礫（北西から）



調査区東側散礫検出状況（南西から）



SB1 検出状況（西から）



SC3（北東から）



調査区東側完掘状況（南西から）

野地久保畠遺跡遺構（3）





調査区西側土層断面（南東から）



調査区北側（西から）



SC1（南から）



調査区西側谷部（南から）

野地久保畠遺跡遺構（4）



ピット列1 (西から)



SC2 (南から)



横穴1 (南から)



横穴2 (西から)

野地久保畠遺跡遺構 (5)



土器



17



18



19(内)



19(外)



石器



20



21



石器

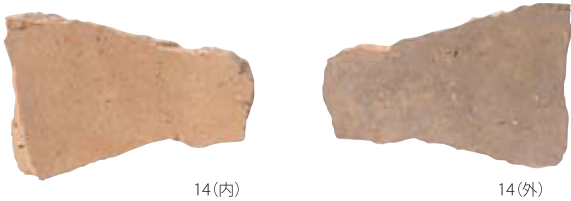
青磁



22



23(内)



14(内)

14(外)



23(外)



23(外)



15(内)

15(外)



24(内)



24(外)



16(内)

16(外)



25(内)



25(外)



26(内)



26(外)

陶器

野地久保畠遺跡遺物 (1) 土器・石器・陶磁器



野地久保畠遺跡遺物 (2) 陶磁器



丸碗



小碗等



広東碗

野地久保島遺跡遺物 (3) 陶磁器



端反碗

野地久保島遺跡遺物（4）陶磁器



皿・小鉢

野地久保島遺跡遺物（5）陶磁器



野地久保畠遺跡遺物(6) 陶磁器・石製品





播鉢



焙烙等

野地久保畠遺跡遺物（7）播鉢・焙烙等

図版 13



近代陶磁器 (105~113)



参考資料

野地久保皇遺跡遺物 (8) 瓦・金属品・錢貨・その他・近代陶磁器・参考資料



調査前遠景（中央の空き地より右が今回のA区、左がB区）



調査中遠景（手前が今回のA区、奥がB区）

森ノ上遺跡 調査区遠景



25%調査開始後（土石流礫・攪乱除去後）



① G2d掘削（初期）と東側壁



② G2d掘削（中期）



調査風景（SI55～60）



③ G2d掘削（後期）（中央に台石、右上SI84）



調査風景



IV層（遺物包含層）～基盤層、左側が尾根部

森ノ上遺跡 掘削等の様子



調査区北側壁と散礫、遺物出土の様子（赤竹串は土器、白竹串は石器）



調査区北側壁と土石流礫、散礫除去後の密集した集石遺構  
森ノ上遺跡 土層堆積と散礫・集石遺構



調査区中央の巨礫と多量の散礫



完掘間近（ピンポールは集石遺構跡 2009.1.30）



調査前の様子（2008.8.25）



調査区西側斜面（千枚岩の岩盤 2009.6.8）



調査後の様子（2009.6.8 真下が古江トンネル）

森ノ上遺跡 調査風景



SI11・2・8



SI13・4



SI15



SI16



SI17



SI19



SI110



SI112

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (1)



SI11・25・26



SI15・16・33

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構(2)





S113



S114



S117



S118



S119・23



S120



S121・22



S124

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (3)



S127



S129



S121・22・24・42



S128



S130・31

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構（4）



SI32



SI36



SI37・38・64



SI39



SI34・35・97・98

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (5)



S140



S141



S142



S143・155



S144



S145



S146



S147・152・154

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構（6）



S148



S150



S151



S152



S149・123・125・138

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (7)



S153



S161



S162



S163



S165



S166



S167・68



S169・129・156

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構（8）



SI54~60



SI70



SI71



SI72



SI73

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構（9）



S174



S175



S176



S177・78



S179



S180



S181・83



S182・153

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (10)





S184



S185・106・108



S186



S187・88



S189



S190



S191



S192

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (11)



SI93



SI96



SI94・95



SI99



SI100



SI101と台石

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (12)



SI102



SI103



SI104



SI105



SI107



SI109



SI110



SI110

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (13)



SI112



SI113



SI114



SI115



SI116



SI117



SI118

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (14)



SI119



SI121



SI122



SI120・145

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (15)



SI124・126



SI127



SI128



SI130



SI131



SI132



SI133



SI135

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (16)



SI134



SI136



SI137



SI139



SI140



SI141

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (17)



SI142



SI143



SI144



SI146



SI147



SI148



SI149



SI150

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (18)





SI151



SI157



SI158



SI159



SI160



SI161



SI162



SI163

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (19)



SI164



SI165



SI166



SI167



SI168



IV層断面より検出 (SI3・4)

森ノ上遺跡 縄文時代早期 集石遺構 (20)